

令和7年度 研究集録



# 大輪

第34集

研究主題

自ら考えて行動する力を育む授業づくり

～対話的な学習活動を通して～

(2年次 / 2年計画)

秋田県立大曲支援学校

# 目 次

はじめに 校 長 熊 谷 司

○全校の研究 . . . . . 1

○小学部の研究 . . . . . 9

○中学部の研究 . . . . . 19

○高等部の研究 . . . . . 29

○寄宿舍の研究 . . . . . 43

○研究のあゆみ . . . . . 52

おわりに 教 頭 佐 藤 茂 樹

研究同人

## はじめに

本校は「瞳かがやき、笑顔あふれる学校」を目指す学校像として掲げ、「一人一人の障害の状態や発達段階、特性等に応じた知識、技能及び態度を身に付け、積極的に社会参加、職業自立できる児童生徒」を目指す児童生徒像とし、日々教育活動に取り組んでおります。

「地域が教室」を基盤とした地域に根ざした教育が本校の特色ある教育活動であり、社会に開かれた教育課程の実現に向けた一人一人の教育的ニーズに応じた教育課程の編成と授業づくりの充実を目指し、取り組んでまいりました。

目指す学校像、目指す児童生徒像の実現に向け、本校では昨年度より、研究主題を「自ら考え行動する力を育む授業づくり～対話的な学習活動を通して～」とし、今年度までの2年間、研究を進め、対話的な学習活動を手段とした児童生徒が自ら考えて行動する力の育成を目指してまいりました。

今年度は、研究1年目の課題である「対話的な学習活動の質の向上」「自立活動の視点を踏まえた実態把握と手立ての構築」の二つを踏まえ、全校、そして各学部において実践を重ね、研究を進めてまいりました。

本集録は、その取組についてまとめたものです。本集録を御高覧いただきました皆様には、忌憚のない御意見を賜りますようお願い申し上げます。

私たちは、この2年間の研究により、児童生徒が「自ら考え行動する」という、主体的な姿につながったのか、教師が主導するのではなく、児童生徒主体の授業づくりができたのか、そして、全ての児童生徒一人一人の「確かな学び」「確かな成長」につながったのか、あらためて振り返り、更なる授業改善に取り組んでいく所存です。

# 全校の研究

# 全校の研究

研究主題	自ら考えて行動する力を育む授業づくり ～対話的な学習活動を通して～（2年次／2年計画）
------	--

## 1 主題設定の理由

### （1）これまでの研究から

令和4年度、5年度は、「意欲的に自分の役割に取り組む力を育てる授業づくり」を研究テーマとして、各教科等を合わせた指導を中心に検証を行った。評価規準の具体化による学習活動と手立ての明確化を図り、根拠のある授業づくりを実践したことで、自ら取り組む力の育成につながった。一方で、児童生徒の対話的な学びの場の工夫が必要であったり、教師の支援が手厚いがゆえに児童生徒が考えなくてもできてしまう環境であったりするという課題が浮き彫りとなった。

「対話的な学び」について、中央教育審議会答申（2016）では「子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める『対話的な学び』が実現できているか。身に付けた知識や技能を定着させるとともに、物事の多面的で深い理解に至るためには、多様な表現を通じて、教職員と子供や、子供同士が対話し、それによって思考を広げ深めていくことが求められる。」と示している。前年度の成果や課題と社会的要請を踏まえ、令和6年度からは、研究主題を「自ら考えて行動する力を育む授業づくり～対話的な学習活動を通して～」とした。

### （2）学校経営案から

今年度本校では、「対話的な学習活動による自ら考え行動する力を育む授業づくりの推進」が学校経営の重点事項の一つとして挙げられた。児童生徒が自ら考えて行動する力の育成に向けて、対話的な学習活動を手段とし、教師の発問やグルーピング等の児童生徒が考える状況づくりを工夫しながら、PDCAサイクルに基づいた授業づくりを目指す。

以上のように、本校では、対話的な学習活動を手段として、自ら考え行動する力を育む授業づくりに向けて、授業改善を図っていきたいと考えた。

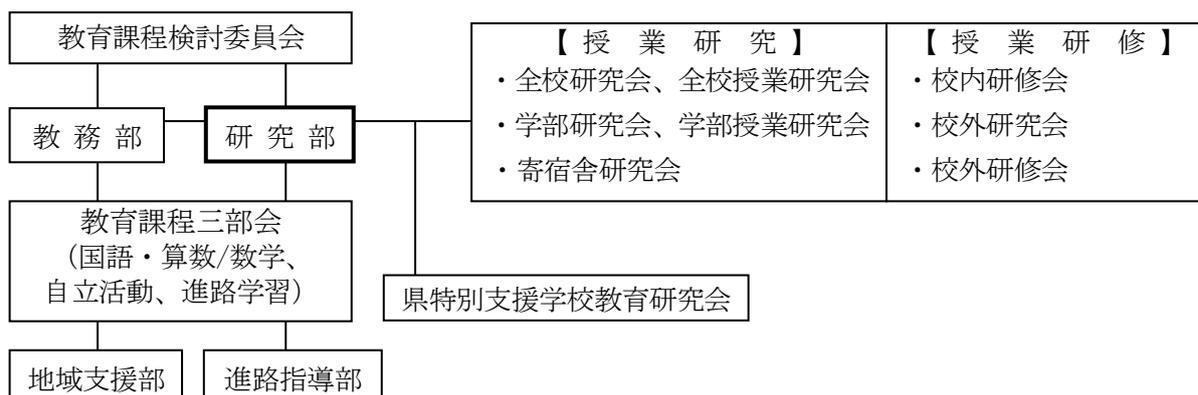
## 2 研究主題の捉え

自ら考えて行動する力の育成のために、自分と他者の意見や考え方を比較したり、自分だけでは気付くことが難しい気付きを得たりしながら、児童生徒が考えを広げたり深めたりできる授業づくりを目指したい。

## 3 研究仮説

自分の考えをもち、対話的な学習活動を通して様々な考えに触れることで、自分に合った方法を選び、自ら行動する力が育まれるのではないかと考えた。

#### 4 研究組織



**教育課程検討委員会**：校長、教頭、教育専門監、学部主事、学部副主事、寄宿舎主任、分掌主任、ICT活用推進リーダー

授業実践を通じた教育課程の評価、検討、改善事項の整理、立案等を行う。

**教育課程三部会**：国語、算数・数学会～中学部主事、研究副主任、進路指導副主任、各学部2名  
自立活動部会～小学部主事、地域支援主任・副主任、研究主任、総務副主任、各学部2名

進路学習部会～高等部主事、進路指導主事、総務主任、各学部2名

学校評議員や地域関係者からの意見を踏まえ、各学部の教育資料の見直し等の課題を吸い上げ、授業改善に生かすべき事項について検討する。

**県特別支援学校教育研究会**：県内特別支援学校の教職員「全員」が会員

特別支援学校の課題について、特別支援学校の充実と発展を目指す。

#### 5 研究内容と方法

1年次である昨年度は、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりを目指し、「自ら考えて行動する姿」について学部での捉えを明確にし、生活単元学習と保健体育科の学習を設定し検証を行った。2年次である今年度は、対話的な学習活動について期待される児童生徒の姿を用いた学習評価を実施して、自ら考えて行動する力の育成を目指した授業づくりを実践する。また、児童生徒の実態に即して目標や内容を設定するために、自立活動の視点を踏まえた授業づくりを実践する。

具体的な研究方法は表1の通りとする。

表1 研究の内容と方法

内 容	方 法
<p>「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業づくり</p> <p>○全校授業研究会・学部授業研究会：授業提示と授業研究会及び改善授業の実施</p> <p>○教職員の共通理解促進、発問、自立活動に関する研修会：全校研究会・学部研究会・研修会の実施、研究集録・研究部報の発行</p>	<p>○自ら考えて行動する力を育む授業実践</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全教員による目指す「自ら考えて行動する児童生徒の姿」の共有と日々の授業づくりへの反映</li> <li>・各学部における授業づくりの視点の設定</li> <li>・対話的な学習活動の設定と学習活動の見直し</li> <li>・教育計画に基づいた指導目標・内容の設定</li> </ul> <p>○全校体制による授業研究の推進と授業改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対話的な学習活動についての共通理解</li> <li>・全学年による自立活動実態シートを活用した単元構成検討会、学習指導案検討会の実施</li> <li>・児童生徒の視点での授業研究会の実施（児童生徒の姿を根拠にした協議）</li> </ul> <p>○教職員の共通理解促進に向けた研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対話、自立活動に関する研修会の実施</li> <li>・発問に関する研修会の実施</li> </ul>
<p>授業実践を通じた教育課程の改善</p> <p>○教育課程検討委員会</p> <p>○教育課程三部会（国語・算数／数学、自立活動、進路学習）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラム・マネジメントを4つの側面で捉えた教育活動の検討と改善（教科等横断的・資源活用・PDCA・個別の指導計画）</li> <li>・自立活動の視点を取り入れた授業づくり</li> <li>・教育課程三部会を活用した授業づくりの課題の吸い上げと改善策の検討</li> </ul>

## 6 昨年度（1年次）の取組と成果、課題

### （1）対話的な学習活動の設定と手立ての検証、整理

対話的な学習活動を手段として授業改善を目指すに当たり、本校の教育専門監による対話に関する研修会を実施した。対話的な学習活動を手段とするために、まずは対話的な学習活動が可能な学習集団づくりに努めた。聞くことのマナーや話合いのルールの定着を図った上で、様々な考えに触れる機会を設けた。教師の発問や考える視点、既習事項とのつながり等を示し、個々に応じた手立てを検討した。対話的な学習活動に関して教職員が共通認識を深めたことにより、単元構成では対話的な学習活動の設定と学習活動の見直しが行われた。

一方で、児童生徒が多様な考えに触れ、考えを深めるための手立てや、自分の考えをもつための発問の仕方などの対話的な学習活動の質の向上に課題が見られた。対話的な学習の質の向上を目指すには、児童生徒一人一人が自分の考えをもつことが重要であることを確認した。そこで、2年次は、仮説に「自分の考えをもち」を追記して研究を進めることとした。

### （2）「自ら考えて行動する」姿の明確化

各学部において目指す「自ら考えて行動する」児童生徒の姿を明確化し、教職員間でゴールを共有した。そして、発達段階に応じた学習内容を設定し、日々の授業づくりに反映させ

た。また、授業研究会において、どのような姿が見られたか、手立ては有効だったかについて協議した。学部として目指す姿のゴールを共有したことで、段階的な成長の姿を捉えることができた。日々の授業づくりや授業研究会等を通じて、個々の目指す姿に応じた手立てを工夫し積み重ねたことで、自ら考えようとする素地ができたと考える。

### (3) 課題

- ・対話的な学習活動の質の向上
- ・自立活動の視点を踏まえた実態把握と手立ての構築

## 7 研究計画

実施時期	研究会等	実施内容（○授業づくり、□教育課程）
4月	全校研究会①	○□全教職員での研究主題、方向性の確認 ○□自立活動の視点を踏まえた授業づくりに向けたワークショップと今年度の研究について全教職員での共通理解
	学部研究会①	○□全校研究主題を基にした学部研究の方向性の確認 ○□目指す「自ら考えて行動する力」について自立活動の視点を踏まえた個の目標や手立ての検討
5月	県特別支援学校教育研究会	○□県内特別支援学校の自立活動の指導の充実に向けた実践状況や課題の抽出と協議 ○□自校研究への反映
6月	学部研究会②	○□目指す「自ら考えて行動する姿」に基づく学習内容や手立ての共有及び今後の授業展開への反映
7月	全校研究会②	○□各学部の目指す姿の再確認と段階的な姿の捉えや学部間のつながりについて共有し、今後の授業展開へ反映 ○ 問い、発問に関する研修会の実施
	教育課程三部会①	□国語科・算数/数学科、自立活動、進路指導における各学部の指導の実際と課題の整理
8月	教育課程検討委員会①	□1学期までの授業実践を通じた教育課程の評価、検討
	学部研究会③	○ 自立活動に関する研修会の実施 ○ 研究対象とする指導の形態（生活単元学習）における授業実践の振り返りと児童生徒の変容について
9月	単元構成検討会 学習指導案検討会 全校授業研究会① 授業提示：高等部	○ 高等部3年「生活単元学習」の授業提示、授業研究会の実施 ○□指導助言者からの研究・授業実践への評価、助言
10月	単元構成検討会 学習指導案検討会 全校授業研究会② 授業提示：中学部	○ 中学部1年「生活単元学習」の授業提示、授業研究会の実施 ○□指導助言者からの研究・授業実践への評価、助言
	学部研究会④	○ 研究対象とする指導の形態（生活単元学習）における授業実践の振り返りと児童生徒の変容について

実施時期	研究会等	実施内容（○授業づくり、□教育課程）
11月	単元構成検討会 学習指導案検討会 全校授業研究会③ 授業提示：小学部	○ 小学部2年「生活単元学習」の授業提示、授業研究会の実施 ○□指導助言者からの研究・授業実践への評価、助言
	教育課程三部会②	□国語科・算数／数学科、自立活動、進路指導における各学部の指導の実際と課題の整理
12月	教育課程検討委員会②	□2学期までの授業実践を通じた教育課程の評価、検討
1月	全校研究会③	○□授業づくりの成果の共有と今後の授業づくりに向けた検討
	学部研究会⑤	○□今年の学部研究についての評価 ○ 授業づくりの成果と課題の整理
	教育課程検討委員会③	□今年度の教育課程の評価、検討、次年度の計画
3月	全校研究会④	○□全教職員での今年度の研究成果と課題、次年度の方向性の共有
	学部研究会⑥	○ 次年度の授業づくりや学部研究に向けた構想

## 8 研究の実際

### (1) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり

#### ① 自ら考えて行動する力を育む授業実践

1年次で明らかになった各学部の「自ら考えて行動する児童生徒の姿」について、所属する学部だけでなく、各学部間のつながりを意識できるように、つながりを整理して全職員で再度共有した。その上で各学部における授業づくりの視点を見直し、改善を図った。昨年度課題となっていた対話的な学習の質の向上に向けて、教師の役割と働きかけの工夫について、より具体的に検討し、授業実践を行った。

#### ② 全校体制による授業研究の推進と授業改善

各学部において、学部授業研究会、全校授業研究会、小学部のミニ研究会を実施することで、全学年による単元構成検討会、学習指導案検討会、授業提示を行った。単元構成検討会や学習指導案検討会では、授業者、学部主事、教育専門監を交えて自立活動実態シートを活用しながら学習内容や目標、手立てを検討した。また、各学年で対象児童生徒を2名抽出し、単元の初期、中期、後期に評価を行う場を設定し、授業改善につなげた。

授業研究会では、児童生徒の自ら考えて行動する力を育むための目指す姿をより具体的に明示し、学習支援アプリを活用して協議を行った。

#### ③ 教職員の共通理解促進に向けた研修

児童生徒が自分の考えをもち、考えを広げたり深めたりするための授業づくりに向けて、本校の教育専門監による発問に関する研修会を実施した。教職員からのアンケートを基に内容を検討した上で、授業場面に応じた発問の意図やねらい、児童生徒の思考の流れに沿った発問の仕方等について具体的な内容を交えての講話により、共通理解を図った。

また、自立活動の視点を踏まえた授業づくりに向けて、本校の教育専門監による自立活動に関する研修を実施した。学習指導要領と照らし合わせながら、自立活動の捉え方や配慮事項について共通理解を図った。

## (2) 授業実践を通じた教育課程の改善について

### ① 自立活動の視点をもった授業づくり

自立活動の視点を取り入れた授業づくりの流れを共有するために、第1回全校研究会では「自ら考えて行動する力」を下支えする力の共有や的確な実態把握、手立ての構築についてのワークショップを実施した。児童生徒の、個々が目指す自ら考えて行動する具体的な力とそれを下支えする力について話し合い、具体的な手立てを話し合った。下支えしている力は、自立活動の指導目標と重なる部分が多いことを共通理解し、自立活動の視点をもった手立ての構築、授業づくりについて共有した。その後の単元構成検討会や学習指導案検討会では自立活動実態シートを活用し、自立活動の視点をもった授業づくりを進めた。

### ② 日々の授業実践と教育課程三部会との連携

教育課程三部会（国語・算数／数学部会、自立活動部会、進路学習部会）では、日々の授業づくりの成果の吸い上げと改善策についての意見交換や教育課程検討委員会への提案事項の検討等を行った。自立活動部会では、今年度授業づくりに活用する自立活動実態シートの作成についての流れを確認し、周知した。また、活用についても、各学部の実践事例を集めて改善案を検討したり、肢体不自由教育専門監の活用等を実施したりした。三部会での取組は職員会議を通じて周知している。今後も各学部、他分掌と連携し、教職員の共通理解を深めて授業改善につなげていく。

## 9 成果と課題

### (1) 成果

#### ① 「自ら考えて行動する力」の育成

自分の考えをもつためには、様々な経験の積み重ねやたくさんの人との関わりが大切であることを共有し、授業づくりを進めた。各学部の授業では、外部や他学部の人と関わりのある学習を進めてきたことで、児童生徒の相手を意識して行動する力の高まりが見られた。対話的な学習活動の中で、たくさんの人々と関わり、様々な考えに触れ、自らの考えを広げたり、自分に合っている方法を選んだりして行動する姿につなげることができた。

1年次の課題を基にして授業づくりの視点の再検討と改善を行い、具体的な手立てを構築した。加えて、発問や自立活動の研修において教職員の考えを共有した上で手立てを構築していく中で、児童生徒の思考の流れに沿った発問の仕方や思考を深めるための学習内容の設定、教材教具等の工夫により、児童生徒一人一人の自ら考えて行動する力を高めることができたと考える。

#### ② 自立活動の視点を取り入れた授業づくりの推進

年度の初めに自立活動の視点を取り入れた授業づくりの流れを共有し、研究授業の単元構成検討会や学習指導案検討会で自立活動実態シートを活用することや自立活動の研修会を行うことで、自立活動を踏まえた授業づくりについて教職員の意識が高まった。自立活動の視点を取り入れた授業づくりを進めたことで、的確な実態把握と教職員の児童生徒を見取る力の向上につながった。研究授業においては、自立活動実態シートを抽出児童生徒の補助資料として活用したことで、参観者にとっても目標及び学習活動の設定の意図をく

み取ることができた。それにより、各研究授業の協議において、児童生徒が目指す姿に迫るための改善案を活発に議論することができた。

## (2) 課題

### ① 児童生徒一人一人に応じた多様な表現手段による対話

対話的な学習活動を取り入れた自ら考えて行動する力を育むための授業づくりの流れを構築することができた。一方で、全ての生徒にとっての対話的な活動が保障できていたか、言葉での対話的な学習活動に重きが置かれていなかったかを改めて振り返る必要がある。一人一人に応じた、考える力、自ら行動する力の育成に迫っていくためには、児童生徒個々の実態を丁寧に見取り、授業づくりをすることが重要である。言葉でのやりとり以外に、書くこと、描くこと等、児童生徒の得意な方法での表現を大切にし、一人一人に合った表現方法や受容の仕方を育成するなど、今一度、多様な対話の在り方を前提とした指導を工夫していく必要がある。

## 10 今後に向けて

今年度、対話的な学習環境の設定や自分の考えをもつための工夫、考えを深め、表現するための工夫等から、自分の考えを様々な手段で周囲に伝えたり、考えて行動したりする姿につながった。一方で、児童生徒が自信をもって対話する相手が身近な教師である場面が多かったことから、他者との関わりや協力場面をさらに増やしていく必要があると考える。

これまで活用方法が個に任せられていた自立活動実態シートを授業づくりの流れに取り入れて全職員で共通理解を図りながら研究を進めることができた。それにより、生徒の実態を共有し、より個々のニーズを反映した授業づくりを行うことができた。今後も、自立活動の視点を取り入れた授業づくりを推進するため、引き続き自立活動実態シートを活用した研究を推進していきたい。

### <参考文献>

秋田県立大曲支援学校 (2025. 3) : 研究集録「大輪第33集」(令和6年度)

中央教育審議会 (2016. 12. 21) : 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について (答申)

全国特別支援学校知的障害教育校長会[編著] (2019) : 知的障害特別支援学校における深い学びのアプローチ「主体的・対話的で深い学び」からの授業実践 東洋館出版社

下山直人[監修]全国特別支援学校知的障害教育校長会[編者] (2018) : 知的障害特別支援学校の自立活動の指導 ジアース教育新社

# 小学部の研究

## 小学部の研究

### 1 小学部の目指す児童像

- (1) 楽しく体を動かし、健康に生活する児童
- (2) 自分の思いや考えを伝え、友達と仲良く活動する児童
- (3) 夢中になって活動したり、進んで役割に取り組んだりする児童

### 2 小学部の目指す「自ら考えて行動する」児童の姿

- ・活動の内容や目的に期待感をもち、やってみようとする児童
- ・自分の考えをもったり新しい方法に気付いたりして、自分なりの方法で表現する児童

### 3 研究の方法

次の方法で、授業づくりの視点の有効性を検証する。

- ・自立活動実態シートを活用した児童の実態把握に基づく目標設定
- ・参観シートを活用したミニ授業研究会(以下、ミニ研)の実施  
ミニ授業研究会：学部内の職員で授業を参観し合い、授業改善を図る取組。
- ・抽出児童を中心とした授業参観による授業改善
- ・抽出児童のエピソード記録による単元の評価

授業づくりの視点	主な内容
対話的な学習活動の設定	小学部における対話的な学習活動は、次のとおりとする。 <b>協働して課題解決する学習活動</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人が自分の考えをもつ場の設定</li> <li>・課題解決のゴールイメージの共有</li> <li>・互いの考えを聴き合える集団の構築</li> </ul> ※「主体的・対話的で深い学び 実践ハンドブック」 (新潟県立教育センター) より抜粋
教師の役割と働き掛けの工夫	○環境設定 <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が安心して考えを表現できる学習環境を設定する。</li> <li>・児童の実態に応じた表現方法を保障する。</li> </ul> ○教師の指示、説明、発問 <ul style="list-style-type: none"> <li>・発問のねらいを明確にし、答えを予測する。</li> <li>・話し方、声量、話すスピード、間を吟味する。</li> </ul> ○教材提示 <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が自ら疑問をもつような工夫をする。</li> <li>・特性に応じて、児童が注目できるように提示する。</li> </ul>

### 4 研究計画

月	日	主な活動
4	18	学部研究会① <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学部研究1年次の成果と課題の共有</li> <li>・自立活動の視点を参考にした「自ら考えて行動する力」の検討</li> </ul>
6	24	学部研究会② <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学部研究2年次の概要の共有</li> <li>・指導主事計画訪問に向けた授業のシナリオづくり</li> </ul>

9	5	学部研究会③ ・ 動画による自立活動の研修 ・ 自立活動実態シートを活用した抽出児童の単元目標の設定
9	29	学部授業研究会 小学部4年「生活単元学習」 ・ 単元検討会 8/21 ・ 学習指導案検討会 9/12
11	26	全校授業研究会③ 小学部2年「生活単元学習」 ・ 単元構成検討会 10/3 ・ 学習指導案検討会 11/5
12	12	学部研究会④ ・ ミニ研の記録や抽出児童のエピソード記録による成果と課題の検証
1	20	学部研究会⑤ ・ 成果と課題の共有
3	18	学部研究会⑥ ・ 次年度の研究について

## 5 研究の実際

### (1) 学部研究会の取組

#### ① 自立活動実態シートを活用した児童の実態把握に基づく目標設定

学部研究会①で自立活動実態シートを活用し、各学年で目指す自ら考えて行動する姿とそれを支えるために必要な力について検討した(資料1)。新体制となった4月に担任全員で担当学年の児童の自立活動実態シートを見合ったり、自立活動実態シートを基に実態把握をしたりすることができた。育てたい力に応じたグルーピングをしたり、得意なことを把握したりした。

4/18(金)小学部研究①ワークシート 「自立活動の視点を参考に、自ら考えて行動する力を考えよう」

小学部の目指す「自ら考えて行動する」児童の姿

- ・ 活動の内容や目的に期待感をもち、やってみようとする児童
- ・ 自分の考えをもったり新しい方法に気付いたりして、自分なりの方法で表現する児童

小学部 2 年生の 自ら考えて行動する力

自分の経験に照らし合わせて、活動に見通しをもて、自らやっていきとす力

↑

それを下支える力

見る力	聞く力	自分ごととしてとらえる力 (人ごとのせじやなく)	情報を受け取る力 (言葉、文字、サイン、イラスト、写真など)	気持ちの安定 安心感	
-----	-----	-----------------------------	-----------------------------------	---------------	--

#### 資料1：学部研究会①ワークシート記録

学部研究会③では、本校教育専門監が作成した資料を基に自立活動についての勉強会を実施し、自立活動の視点を各教科等の授業づくりに生かす際の考慮点を再確認した。資料を参考に自立活動の視点から、抽出児童の単元目標を設定したり、考えをもつための手立てや表現するための手立てを検討したりした。

学部授業研究会、全校授業研究会③の授業づくりにおいては、単元構成の段階から抽出

児童2名の自立活動実態シートを活用した。単元構成検討会では実態の共有を行い、学習指導案検討会では目標と手立ての検討をした。

② 授業のシナリオづくりと研修会による発問の意図や技術の再考

学部研究会①では、昨年度の小学部研究の成果と課題について情報を共有した。教師の発問が課題として挙がり、今年度の研究では発問について研修していくことを確認した。

学部研究会②では、令和6年度授業づくりプロジェクトの資料を基に授業のシナリオづくりを行った。発問に対する児童の反応を予想することや、誰がどのタイミングでどのように、どのような言葉で発問をするのかなど、具体例を示しながらポイントを共有した。提示授業の活動を抜き出して発問を整理したり、発問に対する児童の反応を予想したりして授業を組み立てた(資料2)。全校研究会②では、発問についての研修会を実施した。よい発問の条件や効果的な発問のポイントについて教育専門監の講話を聞いた。学部授業研究会や全校授業研究会③においては、学習指導案に教師の支援として発問に関する記載が見られるようになり、T1として全体に向けた発問、グループ活動や個別活動での個々に向けた発問など、場面や役割に応じて意図的に使い分けて実践できた。どちらの指導助言でも、分かりやすい言葉を意識している、問い直しが少なく児童の反応をよく待っている、児童の様子を見て過不足なく言葉を掛けているなど、発問や言葉掛けに関する成果が挙げられた。

**活動(2 グループ活動)**

発言者	発問・発言の内容
司会G	体育館の声の大きさに気付いてほしい
T1	「(声のものさし表を提示しながら)クイズ大会の声の大きさは何番がいいと思う?」
A・B	「さんばん」
T1	「どうして3だと思ったの?」
A・B	「体育館だから」
T1	「そうだね。じゃあ、3の声を出してみようか!」
	(「大きな声」返ってきた場合)→「大きい声って何番?」or 声のものさし表を指さし
	(「ぞうさん」など、動物の名前で答えた場合)→「どうして〇〇なの」と理由を尋ねる
	※意図した答えがこないとき(最終手段)→夏祭りってどこでやるんだっけ?「体育館!」

資料2：学部研究会②授業のシナリオ(一部抜粋)

③ 参観シートを活用したミニ授業研究会(以下、ミニ研)の実施

昨年度から継続し、2年目の実施となった。学部授業研究会(4年)、全校授業研究会③(2年)以外の、1年、3年、5年、6年と全学年が授業実践を行った。今年度はミニ研記録シート(授業者記入)の他に、研究部共通の参観シート(参観者記入)を活用し、より研究の視点に沿った授業参観と記録ができるようにした。ミニ研記録シートは、単元構成検討から授業改善後の児童の変容までが一枚にまとまっており、授業改善の一連の流れが分かるようにした。夏季休業中に学年ごとに単元構成検討を行い、学部研究会③でミニ研に関わる単元の抽出児童2名の目標設定をした。

ミニ研の成果と課題について、学部職員へのアンケートより次のような意見が挙がった。

〈成果〉

- ・教材提示や発問を授業内でどのようにしているのか、客観的な視点で知ることができた。
- ・授業を見合う時間が設定され、たくさんの方から意見もいただけるので学びが多い。
- ・学部研の中で授業の相談をすることで、効率よく授業準備と実践ができた。TTで授業についてよく話し合う機会になった。

〈課題〉

- ・なるべく多くの先生方が見ることができるよう工夫できればよい。

#### ④ 抽出児童2名のエピソード記録による単元評価と授業改善

学部研究会③で抽出児童2名の目標を設定し、その後全学年が授業実践を行った。学部授業研究会や全校授業研究会③では、2名の児童を中心に授業参観を行った。参観する視点を絞ることができるため、なぜこのような選択をしたのかなど児童の姿を丁寧に見取ったり、個別の目標に迫る手立てについて改善案が出たりする協議となった。学部研究会④ではエピソード記録のまとめをした(資料3)。ミニ研、授業研究会に関わる単元の初め、中間、終わりの3回について児童の様子と手立てについて記録をした。学部職員へのアンケートから次のような成果が挙げられた。エピソード記録を取ることで次はどのような教材にしようか、どんな言葉掛けをしようかと担任間で次時の改善案を考えるよい機会となった。また、抽出児童の成長を考えて授業づくりをすることで、似ている実態の他児童のこともイメージして手立てを考えることができ、抽出児童以外の児童の成長にもつながった。1 単位時間で児童の変容を見取るのは難しいが、単元を通して変容を記録することで、有効だった学習活動や手立て、効果的ではなかった手立てが明確となり、単元の評価と授業改善へとつながった。

小学部 5 年 単元評価記入シート(児童名: XXXXXXXXXX)

単元名	ピザスマイルへようこそ2
単元目標(全体)	友達の意見を聞いたり、自分の考えを伝えたりして、ピザセコンを聞く。
単元目標(個別)	友達の意見を聞いたり、教師に相談したりしながら、ピザセコンの活動をする

※単元初め、中間、終わりで、2~3回程度評価

児童の様子	手立て(対話的な学習活動、教師の発問など) ○効果的だったもの △効果的ではなかったもの
日にち(10/23) 主な学習活動:11グループで、どんなピザを作るか話し合い。 とペアになり、ピザソースの味セッティングに何をのせるか話し合、決めた。 最初は教師に自分の意見を伝えるのみだったが、( )にも聞くように促されると、 右手を出して「ピマンエ」のせる?左手を出して「セハイ」と尋ね、タッチしてもらって気持ち を聞こうとしていた。	○自分の意見だけを話している時、「( )」にも聞いてみたら?言葉掛けで友達への意識が向いた。 ○ホワイトボードに、決めること、決まったことを整理して記録することで話し合う内容の順番が分かること、発表も整理して話せた。 △( )と意思疎通するための教材が足りなかった。( )
日にち(11/4) 主な学習活動:注文票のアイデア出し 前時にごちそうした先生方からもらった感想を見て、お客さん全員に喜んでもらえるようなピザを作るにはどうしたらいいかの話し合い活動。T2と具体例を出して考えたり、相談したりすることで「好きなものを選ぶようにしたらいい」と意見を話す。実際に注文票を作る場面では、( )のうたうピザのうたを聞いたり、友達の意見を聞いて何を取ったらいいか気付か、友だちにつけ足して話した。	○「〇〇さんは好き、△△さんは嫌い、で言ってるけど△△さんはどうしていい、って思ってる?」「△△さんの好きなものをどうしたらいい?」など、具体的に聞いていた。 ○発想のキーワードを取り上げて提示したことで、話し合いが理解しやすかった。 △友だちとのセリガクが、友だち同士でセリガクできる手立てが少なかった。
日にち(12/9) 主な学習活動:ピザづくり(調理) 人にごちそうするために作ることに分かり、おいしく、注文票の通りに作れるように、手順カードや注文票をよく確認し、慎重に計量しながら調理をした。心配になると、教師に自分から助けを求めた。途中で、前時に立てた目標「注文票をよく見て、( )に教えるながら作る」を確認すると( )と一緒に生地をこねたり、セッティングを控えて「こねて」と伝えたりした。	○誰にごちそうするか、自分たちで決め、注文票もお願いし、たことで、相手を意識して調理できた。 ○前時に決めた目標を、( )と一緒にできるような工程の直前に( )で、自分から友だちに誘いかけ、一緒に調理できた。 △セリ直しができないと思っているよう、タンドリーが助けるから、ちよとせ、てみたら?と促す。他国語も読む様子が見られた。効果的ではなかった環境も調整することにより、自分の主体的活動できそう。

資料3：抽出児童のエピソード記録を基にした単元評価シート

(2) 授業実践①【小学部4年合同 生活単元学習】

<p><b>単元名</b> 「みさと、ふしぎ発見～ニテコサイダーのひみつをつたえよう」(総時数 38 時間)</p>	
<p><b>単元の目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に興味をもち、校外学習や体験活動を通して美郷町の特色や名産を知る。【知】</li> <li>・小学校との交流に向けて、相手に伝わる話し方や製作の工夫について気付く。【知】</li> <li>・やりたいことや工夫したいことを自分なりの方法で伝えたり、友達の考えに関心をもったりする。【思】</li> <li>・同じ目的に向かって友達と活動をやり遂げることのよさを感じたり、達成感をもったりする。【学】</li> </ul>	
<p><b>単元設定の理由</b></p> <p>児童生徒の実態として、友達と一緒に活動する楽しさを感じたり、友達を誘ったりする姿が見られてきた。繰り返しの活動では、見通しをもって自分から活動に向かったり、自分の役割に気付いたりして活動する児童が多い。昨年度は本校の地域の特色である「大曲の花火」について学習を積み重ねている。本学年は美郷町在住の児童が複数名おり、児童にとって身近な地域であることや、居住地周辺の地域に対する興味・関心を高めることをねらって、今年度は美郷町を舞台にした学習を展開している。</p> <p>前単元「みさと、ふしぎ発見①」では、「ミサトとセッカのだいぼうけん」の絵本のストーリーに沿って、美郷町の特色を知った。また、本校小学部で実施した「なつまつり」で「クイズやさん」を出店し、学習した内容をクイズにして出題したり、お客さんとの関わりを楽しんだりして、十分に達成感を感じることができた。</p> <p>本単元では、手づくり工房湧子ちゃんへ校外学習に行き、美郷町の名産であるニテコサイダー工場の見学、インタビューを行った。前単元で学習した湧水(ゆうすい)との関連を図り、美郷町のよさを感じることができるようにした。学習のゴールとして近隣の小学校4年生との交流学習を設定し、クイズラリーを行うこととした。児童が「またクイズやりたい」と話していたことから、意欲をもって安心して取り組み、前単元の見通しを生かして児童同士でやりたいことや工夫したいことを伝え合うことができると考え、本単元を設定した。</p>	
<p>「自ら考えて行動する」姿を育むための手立て</p>	<p>児童の変容</p>
<p>◎協働して課題解決する学習活動の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の流れを一定にする (BGM、合い言葉、主活動)</li> <li>・テレビ番組風の動画の作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習が始まる前にBGMを流す、合い言葉を言って活動を切り替えるなど、毎時間の活動の流れを一定にしたことで、活動の始まりと終わり、「今やること」が分かって、全員が期待感をもって取り組んだ。</li> <li>・活動の様子を動画にまとめたことで、自分の出番を覚えたり、頑張りを振り返ったりする姿につながった。また、友達の様子に着目したり、出番の友達へ言葉を掛けたりする様子が自然に見られるようになった。</li> </ul>
<p>◎教師の発問や教材の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・写真や動画、文字での情報の提示</li> <li>・児童にとって身近な言葉や適切な間の設定</li> <li>・教師への注目</li> <li>・教材への注目</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校外学習で体験したことを写真や文字を使ってまとめたことで、覚えたことや感想を言葉で伝え合う姿が見られた。</li> <li>・複数の児童に同じ発問、似ている発問をしたことで、活動の目的やめあてをよく聞いたり、伝えたりしようとする意欲が高まった。</li> </ul>

9月29日(月) 学部授業研究会

本時の目標(本時15/38)

- ・お客さんに伝わる話し方や製作方法について、やりたいことや工夫したいことを伝えて活動する。【知】【思】

協議内容(◇…成果 ◆…課題)

- ◇これまでの積み重ねから、やることが分かって取り組んでおり、学習への意欲が高い。
- ◇めあてで学習内容の視点が具体的に示されており、まとめも児童が理解できていた。
- ◇見た目で分かりやすい塗り方の良い例と悪い例があり、比較できるのがよい。また、「びっしり」「すかさか」のキーワードが分かりやすい。
- ◆抽出児童1名について、製作方法を二択から選択していたが、実際に活動を始めると選ばなかった方をやり始めた。
- ◆板書は見やすかったが、情報量が多かった。

改善案

- 工夫するポイントが分かって活動に向かうために
  - ・グループ活動に必要な情報量を精査して提示する。また、手元に手本を置くなどの工夫をしてはどうか。
- 工夫したいことを伝えるために
  - ・発達段階に応じた支援方法を工夫する。まずは選択肢の意味が分かって具体物から選ぶことができる。そして口形模倣へステップアップする。

指導助言(本校 教諭(兼)教育専門監 菅原 咲希子)

- ・単元については、興味のあることについて地域の人から話を聞いたり実際に見たりしたことを、みんなのものとして整理して誰かに伝える、そうした学習を通して学んだことがさらに広がりや深まりをもっていく、定着していくと感じた。
- ・丁寧に活動の目的を確認したり本時のめあてのポイントを明示したりして意識付けしていた。展開やまとめでも同様にめあてやポイントが意識されていた。
- ・発問は分かりやすい言葉を意識していた。言い直しも少なく、児童の反応をよく待っていた。さらに他の子どもに考える機会を与えたり、どうしてそう言ったのか問い直したりする場面もあり、子どもが考える場面をつくっていた。
- ・抽出児童1名について、選択した方法と異なる道具を使って制作を始めた。やりたいことを伝えたが近くにあった方をやりたくなったのか、取りやすかったのか、物があれば選べたのかなど、先生方からたくさん意見が出ていた。1回様子を見ただけでは分からないと思うので繰り返しやる中で「こうすればよりやりたいことを選びやすいな、伝わりやすいな」というところがあれば、次回に生かしていただきたい。

授業実践②【小学部2年合同 生活単元学習】

<p>単元名 「わくわく ドキドキ チャレンジ～わらび座の人と一緒にチャレンジしよう～」 (総時数 12 時間)</p>	
<p><b>単元目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・役割が分かり、教師や友達と協力しながら、招待状や飾り付け、お礼状を作成する。</li> </ul> <p>【知】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉や身振り、表情、写真などの方法で相手に思いを伝える様々な方法を知る。【知】</li> <li>・自分たちでわらび座の人と一緒にやってみたいゲームや活動を選ぶ。【思】</li> <li>・楽しい活動の中で、自分なりの方法で働き掛けを受け入れたり、自分の気持ちを表現したりする。【思】</li> <li>・交流会の準備や当日の活動、事後の活動で自分の役割に向かう。【学】</li> <li>・わらび座の人や友達と一緒にチャレンジしようという気持ちをもって活動に取り組む。【学】</li> </ul>	
<p><b>単元設定の理由</b></p> <p>児童の実態として、友達や教師と関わることが大好きで音楽やゲームなど自分の好きなものを通して一緒に活動することができるようになってきた。話し掛ける、自分から近くに寄って行く、手を伸ばす、笑顔になるなど行動や表情で気持ちを伝える場面が増えてきた。また、製作活動ではそれぞれの得意なことを生かした役割分担をすることでやるべきことが分かり、友達と一緒に最後まで作り上げ、達成感や成就感を感じることができるようになってきた。</p> <p>9月に行ったわらび座の方々とのワークショップは、初めての経験であったが、インストラクターや俳優の方々と一緒に身体を動かしたり、太鼓を演奏したりすることで「楽しい」「嬉しい」という気持ちを存分に味わうことができた。さらに、「自分からチャレンジしてみよう」「ドキドキするけど一緒にならできる」という気持ちを行動や言葉、身体の動きや表情などで活動の中で表すことができた。そこで本単元では、ワークショップで一緒に活動したわらび座の方々に招待して交流会を開き、一緒に楽しむことを通して、自分からチャレンジしてみようとする力や、相手と共に喜びを共有したり感謝の気持ちを感じたりする力を高めていきたい。また、楽しい活動の中で相手からの働き掛けを自分なりの方法で受け入れたり、気持ちを表現したりする力を高めていきたい。そして、楽しい活動が終わったときには友達と協力してお礼状作りをする活動を設定し、感謝の気持ちやまたやりたい気持ちを相手に伝える経験を積み重ねることができるようになりたいと考える。</p>	
<p>「自ら考えて行動する」姿を育むための手立て</p>	<p>児童の変容</p>
<p>◎これまでの経験を生かし、行動するための学習場面や学習内容の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自信をもって取り組むことができる活動の設定（製作活動・ゲーム）</li> <li>・学習活動に見通しをもつための掲示物や教材などの工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の得意なことやこれまで経験してきたことを生かした活動やグループ編成をすることで、集中して取り組んだり友達と一緒にチャレンジしたりすることができた。</li> <li>・学習の積み重ねが分かる掲示物や手掛かりを見やすい場所に掲示することで、何をやるかが分かり、意欲的に交流会や製作活動などに取り組んだ。</li> </ul>
<p>◎教師の役割と発問の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・写真や動画など視覚的な情報の提示と具体的な言葉や手掛かりを使った発問の工夫</li> <li>・言葉掛けの精選と工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な情報や手掛かりを基にして、何を問われているかが大まかに分かり、自ら発言したり選択したりして答えた。</li> <li>・活動に集中したり、自分の考えを積極的に伝えたりすることができた。</li> </ul>

11月26日(水) 全校授業研究会

**本時の目標 (本時 10/12)**

- ・わくわくドキドキ交流会で経験したことや感じたことを、文字や写真、装飾物などを使って表現し、お礼状づくりをする。【知】【思】

**協議内容 (◇…成果 ◆…課題)**

- ◇導入で交流会の写真を見て、思い出したことを言葉にしていた。
- ◇板書が見やすく、児童に活動内容が分かりやすい。
- ◆板書は見やすいが、情報量が多い。
- ◆表現する、選ぶことのレベル上げをどうしていくか。

**改善案**

- 児童の思いや考えを引き出すために
  - ・楽しい気持ちのシンボルやサインに、教師が言葉で意味付けする。
- 児童に応じた選択方法を工夫するために
  - ・自立活動で選ぶ力や表現の仕方の学習をしてはどうか。
  - ・気持ちを表す動作の習得をしてはどうか。

**指導助言 (本校 教頭 佐藤 茂樹)**

- ・導入での前時までの振り返りがよかった。掲示物や画像を上手に活用していた。適宜児童に言葉を掛け、そのやりとりで交流会を思い出すことができ、児童の礼状を作りたいという気持ちが高まっていく様子が分かった。
- ・手紙を書くためのホワイトボード、顔写真を使った受け皿、タブレットなど、小さな工夫と気配りがあった。各グループ担当の先生が、集中できるための活動内容、その子に合った活動内容、教材・教具を用意し、過不足なく言葉を掛けたり、手を添えてアシストしたりしており、児童が自分の活動に集中、没頭している様子があった。
- ・振り返りでは教師が説明をして振り返っていたが、例えば児童が前に立って発表する場面があっても面白かったのではないか。

## 6 成果と課題

### (1) 成果

#### ① 根拠のある実態把握と目標設定

自立活動実態シートを活用し、自立活動の視点から各学年で「考えて行動する姿」とそれを下支えする力を検討したことで、児童の得意なこと、必要な力が明確になった。その後の授業づくりの中でも、育てたい力に応じたグルーピングをしたり、グループごとの手立てを考えたりする際に生かすことができた。

学部職員のアンケートより、次のような成果が挙げられた。(一部抜粋)

- ・自立活動の6項目を根本に見据えて授業のねらいを設定することで、教師間で目指す姿を共有して授業に臨むことができた。
- ・児童の引き出したい姿が明確になり、教師間で共有できた。
- ・コミュニケーションを課題とする児童が多かったため、気持ちを伝える活動や、やりとりをする場面など、授業の中で取り入れたい活動が明確になった。

#### ② 児童の考えを引き出すための計画的な発問の工夫

学部研究会②で授業のシナリオづくり、全校研究会②で発問の研修会を行った。T1としての発問の他、TT間での言葉掛けのタイミングや量についても考えることができた。学習指導案に発問を記載するなど、職員の発問に対する意識が変わった。T1として全体に向けた発問、グループ活動や個別活動での個々に向けた発問など、場面や役割に応じて意図的に使い分けられるようになった。意図的な教師の発問や言葉掛けにより、児童がやることが分かって目の前の活動に向かったり、自分なりの方法で思いを表現したりする姿につながった。

### (2) 課題

#### ① 表現する姿から、伝える姿を目指して

今年度は児童が自分の考えをもち、表現する姿を目指した授業実践を行った。児童が「やりたい」「これがいい」と事物を選択したり、単語や身振り、言葉など自分なりの方法で思いを表現したりする姿が十分に見られたが、それが相手に伝わったかどうか、どうすると伝わるのかまで実践を重ねることができなかった。小学部はコミュニケーションの素地を育むために、相手に思いを伝える方法を確立したり経験を重ねたりする大切な時期である。今後は表現する姿から相手に伝える姿を検討し、人との関わり方の基礎を身に付けたり、相手に伝わったという経験を広げたりしていきたい。

#### <参考文献>

新潟県立教育センター「主体的・対話的で深い学びの推進」プロジェクト(2018)：主体的・対話的で深い学び 実践ハンドブック

# 中学部の研究

## 中学部の研究

### 1 中学部の目指す生徒像

- (1) 運動や食事、睡眠の大切さを知り、心身ともに健康に生活する生徒
- (2) 互いを認め合い、協力して学習に取り組む生徒
- (3) 将来の目標をもち、自分の課題に粘り強く取り組む生徒

### 2 中学部の目指す「自ら考えて行動する」生徒の姿

- (1) 自分の考えをもち、経験を生かしてやりたい内容や方法を選択する生徒
- (2) 相手の気持ちを考え、協働して課題解決する生徒

### 3 研究の方法

次の方法で、授業づくりの視点の有効性を検証する。

- ・ 自立活動お助けシートを活用した生徒の実態把握に基づく目標設定
- ・ 参観シートを活用した授業研究会の実施
- ・ 抽出生徒を中心とした授業参観による授業改善と評価

授業づくりの視点	主な内容
対話的な学習活動の設定	<p>中学部における対話的な学習活動は、次のとおりとする。</p> <p><b>協働して課題解決する学習活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ペアやグループで教え合う場の設定</li> <li>・ 自分たちで話し合って役割分担する機会の設定</li> <li>・ 互いに認め合う関係性の構築</li> </ul> <p><b>自分と結び付け、経験を生かして選択する学習活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分ごととして考えることのできる課題の設定</li> <li>・ 様々な選択肢の準備</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>
教師の役割と働き掛けの工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>○課題の設定 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒の興味・関心を起点にする。</li> <li>・ 必要性を感じられるような課題を設定し、解決すべき問いを明確にする。</li> <li>・ 動きのある活動を取り入れ、十分な活動量を確保する。</li> </ul> </li> <li>○教師の指示、説明、発問 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発問のねらいを明確にして応答を予測する。</li> <li>・ 教師の指示を少なくし、働き掛けたら反応を待つ。</li> </ul> </li> <li>○グルーピング <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主体性につながったり、安心して活動したりするグルーピングを設定する。</li> <li>・ 生徒同士が関わりながら活動する場面を設定する。</li> </ul> </li> </ul>

#### 4 研究の計画

月	日	主な活動
4	24	学部研究会① 「自ら考えて行動する力」の具体的な生徒の姿の検討
6	24	学部研究会② 単元における抽出生徒の目指す姿と、それを実現するための手立てについての検討
8	28	学部研究会③ 自立活動に関する学習会 ・動画による自立活動の研修 ・自立活動の視点に基づいた抽出生徒の目標についての検討
9	18	学部授業研究会 授業提示：中学部3年 生活単元学習（単元構成検討会 7/28、学習指導案検討会 9/4）
10	24	学部研究会④ 全校授業研究会に向けた事前研究会 授業提示：中学部1年 生活単元学習
10	28	全校授業研究会 授業提示：中学部1年 生活単元学習（単元構成検討会 8/1、学習指導案検討会 10/1）
1	20	学部研究会⑤ ・抽出生徒の変容についての検証 ・今年度の成果と課題
2	3	学部授業研究会 授業提示：中学部2年 生活単元学習（単元構成検討会 1/9、学習指導案検討会 1/16）
3	18	学部研究会⑥ 次年度に向けて

#### 5 研究の実際

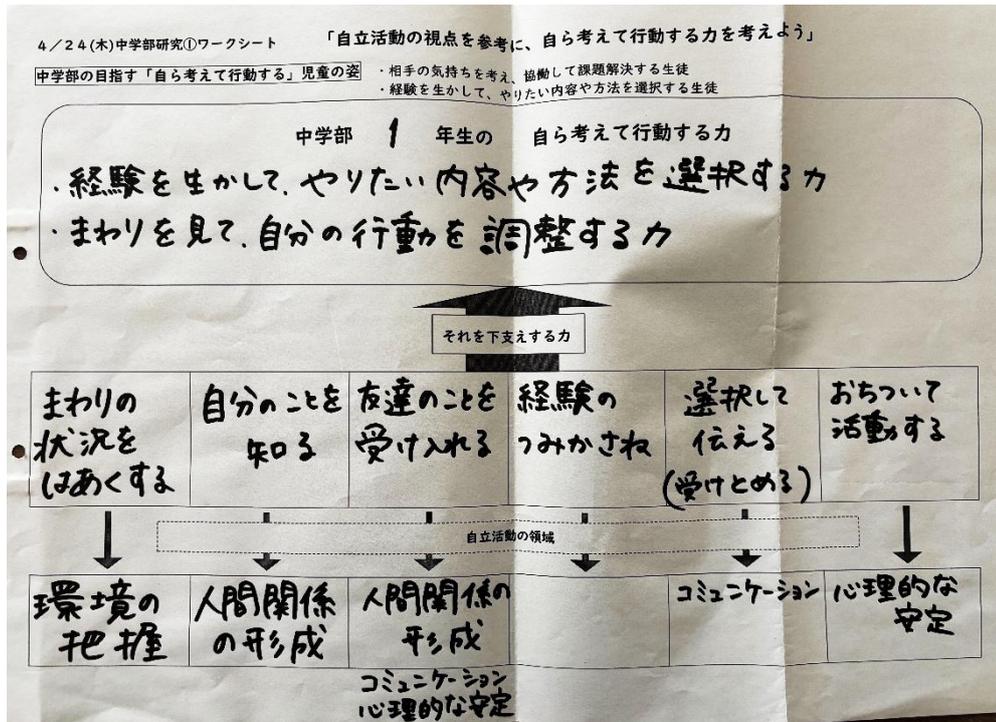
##### (1) 学部研究会の取組

##### ① 「自ら考えて行動する力」を下支えする力の検討

学部研究会①では、全校研究会①での協議をもとに、各学年で育てたい「自ら考えて行動する力」を支える力について、自立活動の視点でさらに検討した。全校研究会①では各学年一人の生徒を抽出して考えたが、この学部研究会では学年集団としての力について検討した。

中学部1年生では、「経験を生かしてやりたい内容や方法を選択する力」や「まわりを見て自分の行動を調整する力」を下支えする力として、「まわりの状況を把握する力」「自分のことを知る力」「友達のことを受け入れる力」「選択して伝えたり受け止めたりする力」「落ち着いて行動する力」が必要であるという意見が出た（次頁資料1）。これらの下支えする力は、それぞれ自立活動6区分の「環境の把握」「人間関係の形成」「コミュニケーション」「心理的な安定」の内容にあてはまるものである。このように、自立活動が「自ら考えて行動する力」の下支えになっていることを学部全体で共有できた。

自立活動6区分の中でも、特に「人間関係の形成」についての項目は、どの学年でも下支えする力として挙げられた。中学部段階において、自己理解や相互理解、相手を認める力が大切であることが分かった。



資料 1 : 学部研究会①ワークシート

② 抽出生徒の目指す姿や、それを引き出すための具体的な手立て等の検討

昨年度に引き続き、全学年で1回以上、生活単元学習の授業研究会を実施した。研究授業を実施するにあたり、単元構成検討会を行い、授業者全員で単元の構成について話し合った。目指す生徒の姿や手立て等を事前に話し合っていたことで、授業づくりの視点が明確になり、授業者全員が同じ視点で授業づくりに関わった。

学部研究会②では、生活単元学習の学習指導案をもとに、各学年で抽出した生徒の目指す姿や、それを実現するための手立てや発問内容を具体的に考えた。詳細な学習場面を想定し、予想される生徒の行動と目指す生徒の姿を考え、どのような手立てや発問があれば目指す姿を引き出すことができるか、各学年で協議した(資料2)。略案等を活用することで、生徒の姿を具体的に予想することができ、とるべき手立てや発問の内容を授業者全員で共有し、実際の授業に生かすことができた。

資料 2 : 学部研究会②  
ワークシート

6/24(火) 中学部研究②ワークシート 「生活単元学習で、〇〇さんに期待する姿と手立てを考えよう」

中学部の目指す「自ら考えて行動する」児童の姿

- 相手の気持ちを考え、協働して課題解決する生徒
- 経験を生かして、やりたい内容や方法を選択する生徒

★どんな学習活動で、どんな手立てが必要か？

学習活動、状況	予想される生徒の行動	目指す(期待する)生徒の姿	手立て(発問の内容)
(例) 友達と協力して実験する。	(例) やるべきことが分からず、友達の様子を見たり、指示を待ったりする。	(例) 自分の役割が分かり、すすんで実験に参加する。	(例) 何をやるべきか分かるように、場面に質問したり、説明したりする。
・おにぎりを作る	・おにぎりの作り方を、人に教わりたい。TA指示や手がかりをまよわす。	・おにぎりを1つだけ作る。2. 自分の作ったおにぎりを、感想を伝える。	・感想をノートに書く。1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100. 101. 102. 103. 104. 105. 106. 107. 108. 109. 110. 111. 112. 113. 114. 115. 116. 117. 118. 119. 120. 121. 122. 123. 124. 125. 126. 127. 128. 129. 130. 131. 132. 133. 134. 135. 136. 137. 138. 139. 140. 141. 142. 143. 144. 145. 146. 147. 148. 149. 150. 151. 152. 153. 154. 155. 156. 157. 158. 159. 160. 161. 162. 163. 164. 165. 166. 167. 168. 169. 170. 171. 172. 173. 174. 175. 176. 177. 178. 179. 180. 181. 182. 183. 184. 185. 186. 187. 188. 189. 190. 191. 192. 193. 194. 195. 196. 197. 198. 199. 200. 201. 202. 203. 204. 205. 206. 207. 208. 209. 210. 211. 212. 213. 214. 215. 216. 217. 218. 219. 220. 221. 222. 223. 224. 225. 226. 227. 228. 229. 230. 231. 232. 233. 234. 235. 236. 237. 238. 239. 240. 241. 242. 243. 244. 245. 246. 247. 248. 249. 250. 251. 252. 253. 254. 255. 256. 257. 258. 259. 260. 261. 262. 263. 264. 265. 266. 267. 268. 269. 270. 271. 272. 273. 274. 275. 276. 277. 278. 279. 280. 281. 282. 283. 284. 285. 286. 287. 288. 289. 290. 291. 292. 293. 294. 295. 296. 297. 298. 299. 300. 301. 302. 303. 304. 305. 306. 307. 308. 309. 310. 311. 312. 313. 314. 315. 316. 317. 318. 319. 320. 321. 322. 323. 324. 325. 326. 327. 328. 329. 330. 331. 332. 333. 334. 335. 336. 337. 338. 339. 340. 341. 342. 343. 344. 345. 346. 347. 348. 349. 350. 351. 352. 353. 354. 355. 356. 357. 358. 359. 360. 361. 362. 363. 364. 365. 366. 367. 368. 369. 370. 371. 372. 373. 374. 375. 376. 377. 378. 379. 380. 381. 382. 383. 384. 385. 386. 387. 388. 389. 390. 391. 392. 393. 394. 395. 396. 397. 398. 399. 400. 401. 402. 403. 404. 405. 406. 407. 408. 409. 410. 411. 412. 413. 414. 415. 416. 417. 418. 419. 420. 421. 422. 423. 424. 425. 426. 427. 428. 429. 430. 431. 432. 433. 434. 435. 436. 437. 438. 439. 440. 441. 442. 443. 444. 445. 446. 447. 448. 449. 450. 451. 452. 453. 454. 455. 456. 457. 458. 459. 460. 461. 462. 463. 464. 465. 466. 467. 468. 469. 470. 471. 472. 473. 474. 475. 476. 477. 478. 479. 480. 481. 482. 483. 484. 485. 486. 487. 488. 489. 490. 491. 492. 493. 494. 495. 496. 497. 498. 499. 500. 501. 502. 503. 504. 505. 506. 507. 508. 509. 510. 511. 512. 513. 514. 515. 516. 517. 518. 519. 520. 521. 522. 523. 524. 525. 526. 527. 528. 529. 530. 531. 532. 533. 534. 535. 536. 537. 538. 539. 540. 541. 542. 543. 544. 545. 546. 547. 548. 549. 550. 551. 552. 553. 554. 555. 556. 557. 558. 559. 560. 561. 562. 563. 564. 565. 566. 567. 568. 569. 570. 571. 572. 573. 574. 575. 576. 577. 578. 579. 580. 581. 582. 583. 584. 585. 586. 587. 588. 589. 590. 591. 592. 593. 594. 595. 596. 597. 598. 599. 600. 601. 602. 603. 604. 605. 606. 607. 608. 609. 610. 611. 612. 613. 614. 615. 616. 617. 618. 619. 620. 621. 622. 623. 624. 625. 626. 627. 628. 629. 630. 631. 632. 633. 634. 635. 636. 637. 638. 639. 640. 641. 642. 643. 644. 645. 646. 647. 648. 649. 650. 651. 652. 653. 654. 655. 656. 657. 658. 659. 660. 661. 662. 663. 664. 665. 666. 667. 668. 669. 670. 671. 672. 673. 674. 675. 676. 677. 678. 679. 680. 681. 682. 683. 684. 685. 686. 687. 688. 689. 690. 691. 692. 693. 694. 695. 696. 697. 698. 699. 700. 701. 702. 703. 704. 705. 706. 707. 708. 709. 710. 711. 712. 713. 714. 715. 716. 717. 718. 719. 720. 721. 722. 723. 724. 725. 726. 727. 728. 729. 730. 731. 732. 733. 734. 735. 736. 737. 738. 739. 740. 741. 742. 743. 744. 745. 746. 747. 748. 749. 750. 751. 752. 753. 754. 755. 756. 757. 758. 759. 760. 761. 762. 763. 764. 765. 766. 767. 768. 769. 770. 771. 772. 773. 774. 775. 776. 777. 778. 779. 780. 781. 782. 783. 784. 785. 786. 787. 788. 789. 790. 791. 792. 793. 794. 795. 796. 797. 798. 799. 800. 801. 802. 803. 804. 805. 806. 807. 808. 809. 810. 811. 812. 813. 814. 815. 816. 817. 818. 819. 820. 821. 822. 823. 824. 825. 826. 827. 828. 829. 830. 831. 832. 833. 834. 835. 836. 837. 838. 839. 840. 841. 842. 843. 844. 845. 846. 847. 848. 849. 850. 851. 852. 853. 854. 855. 856. 857. 858. 859. 860. 861. 862. 863. 864. 865. 866. 867. 868. 869. 870. 871. 872. 873. 874. 875. 876. 877. 878. 879. 880. 881. 882. 883. 884. 885. 886. 887. 888. 889. 890. 891. 892. 893. 894. 895. 896. 897. 898. 899. 900. 901. 902. 903. 904. 905. 906. 907. 908. 909. 910. 911. 912. 913. 914. 915. 916. 917. 918. 919. 920. 921. 922. 923. 924. 925. 926. 927. 928. 929. 930. 931. 932. 933. 934. 935. 936. 937. 938. 939. 940. 941. 942. 943. 944. 945. 946. 947. 948. 949. 950. 951. 952. 953. 954. 955. 956. 957. 958. 959. 960. 961. 962. 963. 964. 965. 966. 967. 968. 969. 970. 971. 972. 973. 974. 975. 976. 977. 978. 979. 980. 981. 982. 983. 984. 985. 986. 987. 988. 989. 990. 991. 992. 993. 994. 995. 996. 997. 998. 999. 1000.

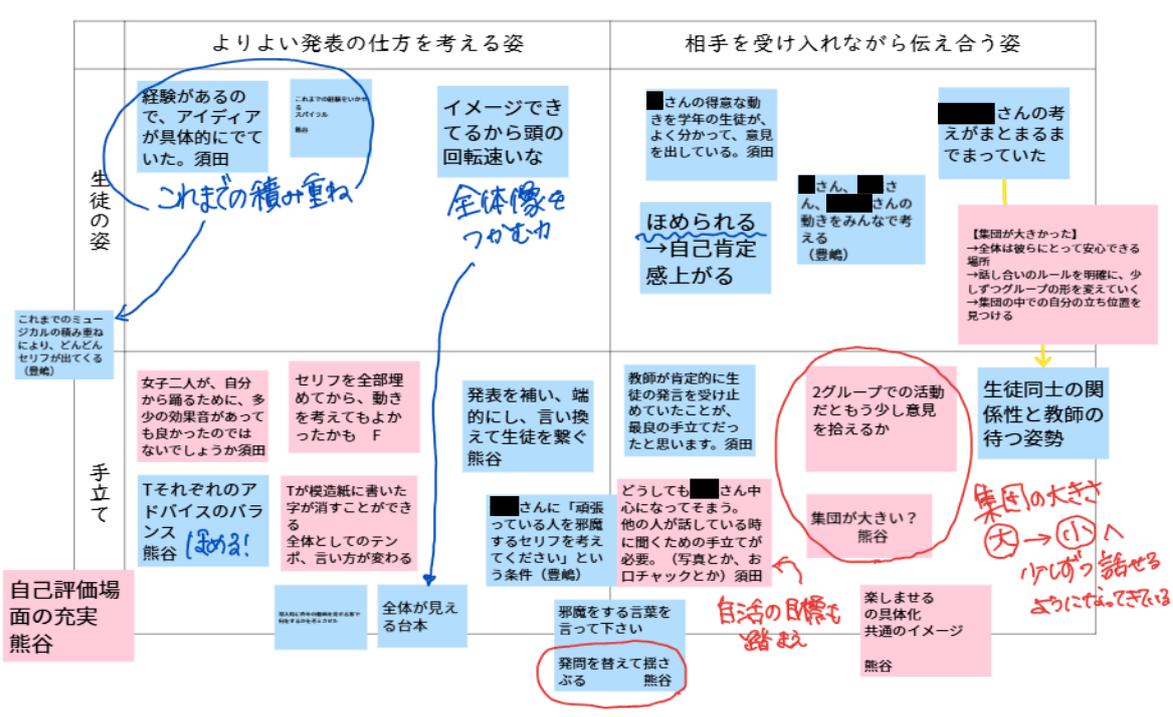
### ③ 自立活動実態シートを活用した目標設定と単元評価

学部研究会③では、学部授業研究会及び全校授業研究会に係る単元構成検討会の内容を共通理解した上で、自立活動実態シートを参考に、抽出生徒の単元目標等を考える機会を設定した。単元評価記入シートを活用することで、単元を進めていく中で、授業者同士で抽出生徒の変容について話し合ったり、授業づくりを見直したりする機会を多くもつことができた。

年度初めには何か質問された際に自分で考えることができず、友達の意見を聞きに行くことが多かった生徒が、グルーピングの工夫により自分で考えなければならない状況を作ることで、少しずつ自分の意見を伝える場面が増えてきた。また、教師からの指示を待って自分から動くことが少なかった生徒は、友達の動きを真似することで少しずつ自分から「できました」と教師に報告するようになってきた。さらに、選択肢を提示することで、友達からの問い掛けにも「こっちがいいと思う」と答えるなど、自分の考えを伝えられる場面が増えてきた。このように、グルーピングを工夫したり、繰り返しの活動を設定したり、選択肢を用意したりすることで、考えなければならない状況が生まれ、生徒が自ら考えて行動する姿が増えた。

### ④ 学習支援アプリを活用した協議や授業動画の視聴

昨年度に引き続き、授業研究会では学習支援アプリを活用した協議を行った（資料3）。手元のタブレット端末で協議内容を見ることができ、研究会が終わってから協議を振り返る際にも便利であった。また、今年度は研究授業の動画を学習支援アプリで公開し、本校職員がアプリ上で視聴できるようにした。当日、授業のすべてをその場で参観することは難しいが、参観できなかった場面も動画で視聴できるようにしたことで、職員の学びが広がった。



資料3：授業研究会協議シート

(2) 授業実践①【中学部1年 生活単元学習】

<p>単元名「なまはげメロディーカンパニー ～お客さんを楽しませよう！企画・準備編～」(総時数 23 時間)</p>	
<p><b>単元の目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見やすいように文字の大きさや誤字に気を付けてアンケート用紙を作成する【知】</li> <li>・相手に合わせた持ちやすさ、鳴らしやすさ、見た目とは何か分かる。【知】</li> <li>・友達と話し合い、相手に合わせてアンケートの内容を工夫する。【思】</li> <li>・相手に喜んでもらえる楽器になるように、楽器作りのポイントを見ながら工夫して楽器を作成する。【思】</li> <li>・グループで分担をして、自分の役割に最後まで取り組む。【学】</li> </ul>	
<p><b>単元設定の理由</b></p> <p>休み時間には静かに音楽や読書を楽しむ生徒と、友達と話したりカードゲーム等で遊んだりする生徒に分かれている。中には、感情が高まると大きな声を出したり、机を叩いて大きな音を出したりする生徒もいるが、学習を繰り返したり見直しをもったりすると、目の前の学習に落ち着いて取り組むようになってきた。</p> <p>グループの友達と、それぞれの得意なことを合わせて一つの課題に取り組んだり、学習したことをまとめて学部集会で発表したりした経験を通して、「自分の得意なことを進んでやる姿」や、「自分の考えをもととする姿」が増えてきているが、生徒同士で話し合っただけで学習を進める場面はまだ少ない。</p> <p>本単元では、小学部5、6年生の前でパフォーマンスをすることを目標に、自分たちで企画・準備を行う。お客さんを楽しませるためにアンケートを行い、それを基にパフォーマンスを考えたり、自分たちで楽器を作ったりする。小グループでの話し合いや学習場面を多く設定することで、自分の考えをもととしたり、考えたことを友達に伝えたりする姿が期待される。また、好きなことをして楽しむだけでなく、得意なことで相手を楽しませるという目的をもつことで、相手意識をもち、友達の考えを受け入れたり、自分の気持ちを伝えたりしてお互いに折り合いを付けながら活動しようとする気持ちを育てたいと考え、本単元を設定した。</p>	
<p>「自ら考えて行動する」姿を育むための手立て</p>	<p>生徒の変容</p>
<p>◎経験を生かして、やりたい内容や方法を選択するために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の得意な活動を取り入れたり、興味のある教材を用意したりする。</li> <li>・自分のやりたいことを友達に伝えられるように、グルーピングを工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材を並べることで、両面テープやのり、ボンドから、経験を生かして使いやすい物を選ぶ姿が見られた。</li> <li>・グルーピングを工夫することで、自分で考えようとしたり、友達に伝えようとしたりしながら活動する姿が増えた。</li> </ul>
<p>◎相手を意識して工夫するために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手を意識できるような発問をする。</li> <li>・小学部の児童や先生の顔写真と名前をホワイトボードに掲示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「小学部の友達が分かるように、楽しむために」という目的を繰り返し確認した。アンケート作成では、ひらがなで書いたり、イラストを入れたりしたらよいのではないかという意見があった。楽器作りでは「〇〇さんのために」作るという姿勢が見られた。また、小学部の児童が喜ぶようにパフォーマンスの内容を話し合ったり意見を出し合ったりする姿が増えた。</li> </ul>

10月28日(火) 全校授業研究会

本時の目標 (23時間中の18・19時)

- ・楽器作りのポイントを意識して、小学部の児童に合わせた楽器を友達と一緒に作る。【思】【学】

協議内容 (◇…成果 ◆…課題)

◇手立てや環境設定により、生徒が取り組むことが分かり、楽しみながらそれぞれの役割に取り組んでいた。

◇教師の発問が、生徒の思考をより深めるものだった。生徒にしっかりと理由を問う内容の発問だった。

◆生徒の関わりについて、対教師が中心で、生徒同士が関わる機会が少なかった。また、生徒同士のつながりを生む教師の働き掛けについて検討が必要だった。

改善案

○「相手に喜んでもらう」には関わる経験を増やすこと、相手を知ることが重視したい。そのことで自分の基準から相手の基準を考えられるようになるのではないかと。

○対教師から生徒同士の関わりを増やしていきたい。そのためには、①グルーピングの工夫、②自然と関わりが生まれる活動や環境の設定、③教師のロールモデルとしての役割、④普段から生徒同士が関わり合う機会の設定等が大切である。

指導助言 (本校 教諭(兼)教育専門監 菅原 咲希子)

・本時の「自ら考えて行動する姿」の一つ、「自分のやるべきことが分かり、落ち着いて学習に取り組む姿」については、本時が楽器作りの10時間中の5・6時間目であること、同じ楽器作りに繰り返し取り組んでいることや、小学部の先生からアンケートをとって本時に向けて話し合いをしたことから、この時間に何をするのか分かって取り組んでいた。また、前回の楽器作りをうけて、先生方が教材等を工夫したり子どもたちに意識して働き掛けたりしていたことで、子どもたちのよい姿につながっていると感じた。

・発問について、発問・教師の言葉掛けが指導案の中にも計画的に意図的に考えられていた。授業説明の中でも、子どもの発言に対して、「どうして〇〇したの」、「何でこうするの」、というような理由を問い直す発問がたくさんあった。主に工夫した点をよく聞かれていたが、その点を意識して確認してほしいという先生方の思いもあったのではないかと。また、誰かが意見を言ったときに、それを受けて、「そうなんだ」と終わらせずに、「〇〇さんはどうなの?」というように他の子どもに考えや意見を求めるところでは、子どもたちの考える場面を作って思考を深めるきっかけとなっていたのではないかと。

・子どもたち一人一人に今どんな姿を望むのか、こんな姿が見られたらいいなという具体的な姿をイメージして、今必要な支援をタイミングよく行ったり、その場面を設定したりすることが大切である。「こうした力をつけてほしい」という意図のある支援の積み重ねが、いずれは「自分から」や「進んで」、「子どもたち同士で」という、子どもたちの姿につながっていくのではないかと。

・振り返りについて、自分自身が自分の頑張ったことや、どのようなことを学んだかを振り返られる大切な場面である。振り返りで大切な三つの視点は、①「本時の学習活動の全てを簡潔に分かりやすくなぞること」、つまり今日したことの確認となる。②「めあてが達成されたか、問答による反応や発表の場面を作ること」。これは今日頑張ったことの確認である。一つ目と同時でもよい。③「本時の学習の成果を伝えて、次時につながることに期待をもたせること」。例えば、次に取り組むめあてを確認するなどが重要である。

(2) 授業実践②【中学部3年 生活単元学習】

<p><b>単元名</b> 成功させよう！中学部最後の秋山台祭（総時数 28 時間）</p>	
<p><b>単元の目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動内容が分かり、意見を話したり、演技を改善したりする。【知】</li> <li>・教師や友達の意見を受け入れ、よりよい表現の方法について考える。【思】</li> <li>・自分の役割を理解して、様々な意見を受け入れながら、友達や教師と関わる。【学】</li> </ul>	
<p><b>単元設定の理由</b></p> <p>生徒たちは修学旅行で劇団四季「ライオンキング」を観劇してきた。演技や衣装、舞台装置に感動し、秋山台祭でどのような劇を発表するか意見を交換し合い、期待に胸を膨らませている。秋山台祭では、中学部2年生から演じてきた「西遊記」の話をもとにした劇を発表する予定である。様々なアイデアをもっている生徒たちだが、「観客を楽しませる」ということより、「自分たちが楽しい」ということを優先してしまうことがある。「自分たちが楽しい」という発表に「見ている人が楽しい」という視点を加えて、みんなが楽しめる発表に仕上げるためにはどうすればよいかを話し合っしてほしいと考え、本単元を設定した。</p>	
<p><b>「自ら考えて行動する」姿を育むための手立て</b></p>	<p><b>生徒の変容</b></p>
<p>◎自分の考えをもつために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの役の台詞や動きを空欄にした台本を提示して、台詞や動きを考える部分を明確に示す。</li> <li>・これまで行ってきた西遊記の劇や、修学旅行で観劇した「ライオンキング」を振り返る。</li> <li>・生徒が意見を発表した際には大いに賞賛し、授業への意欲を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・拡大した台本を黒板に掲示したことで活動内容への見通しをもち、集中して取り組んでいた。自分のやりたいことではなく、台本を見ながら前後の流れを汲み、台本に沿った台詞や動きを話し合うことができた。</li> <li>・学んできたことを振り返ることで、「〇〇の役をやってみたい」「小道具は〇〇を使いたい」など、発表に向けて自分の考えをもつことができた。</li> <li>・発表した意見に対しては、T1だけではなく、近くのT2・T3も賞賛したことで、自分の意見に自信をもち、積極的に話し合いに参加する様子が見られた。</li> </ul>
<p>◎考えて行動するために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のたちの得意なことが生かした演技が出来るように、3年生の得意な事について意見を交換し合う。</li> <li>・アイデアが実現可能かを考えるために、実際に演技をして、全員で検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の特技や、発語のない生徒が得意な動きなど、今までの発表でしてきたことを思い出しながら話し合いを進めたことで、全員が活躍できるような劇を考えることができた。</li> <li>・実際に演技をしながら検討したことで、「手の動きを付けた方が分かりやすい」「迫力を出すために、体も大きく動かしながら、台詞を言った方がよい」など、様々な改善策を話し合うことができた。</li> </ul>

9月18日(木) 中学部授業研究会

本時の目標(32時間中の5・6時)

- ・自分たちだけではなく、観客が楽しめるような劇を、友達と協力して作りあげる。【知】【技】

協議内容(◇…成果 ◆…課題)

- ◇生徒がめあてを意識し、発問に沿った発言が多く見られた。友達の意見を否定することなく受け入れ、ステージ発表をよりよくしようという気持ちが高まっていた。
- ◆発言や話合いの進行が一部の生徒に偏っていた。発言の少ない生徒の表現方法や、他の生徒の関わり方の工夫が必要だった。

改善案

- 意欲を高めるために、学習の最初にこれまでの学習の成果を振り返り、教師と一緒にこれまでに達成したことや、その時の周りからの称賛の言葉を思い出すことで、学校祭の発表に向けての意欲を高める。
- 発語が少ない生徒が発表を行う際に、どのような活動ができるのか、学年全員で考える。生徒が主体となって考えることで、発表の内容に見通しがもて、理解を深めながら学習ができる。
- 「せりふを考える」というだけではなく、「友達の得意なことをもとに考えを出し合ったり、受け入れたりしながら、台本を作る」ということを本時の目標とする。また、何を考えればよいのかが一目で分かる板書をする。

指導助言(本校 教頭 川越 真紀子)

- ・意欲を高めるために、本時に参加している教師が生徒達の今までの成果を伝え、学習の意欲を高めて、多くの生徒が積極的に発表できるような雰囲気づくりをする。
- ・発語が少ない生徒の発表方法を考える際には、教師ではなく生徒たちが主体となって話合いを進めることで、一体感のある授業を展開できるようにする。
- ・本時では黒板に拡大した台本を掲示する。何を考えるのかが一目で分かるように、穴埋めの台本を用意して、自分の考えをもてるようにしたい。

## 6 成果と課題

### (1) 成果

#### ① 自立活動の視点での実態把握に基づく目標設定

「自ら考えて行動する力」を支える力について、自立活動のどの領域にあたり、どのような手立てがあればその力を付けることができるかを学部研究会で協議したり、自立活動についての研修を行ったりしたことで、自立活動が学習活動の下支えになっていることを学部全体で確認できた。自立活動の視点で実態把握をし、それに基づいた目標設定をすることで、どのような力を付ければよいのかを整理して考えることができた。

#### ② 抽出生徒の目指す姿を引き出すための、具体的な手立てや発問内容の検討

略案等をもとに詳細な学習場面を想定し、授業者全員で協議することで、予想される生徒の行動や目指す姿について考えやすかった。目指す姿が明確になることで、そのための手立てや発問の仕方を具体的に考え、実際の指導に生かすことができた。

#### ③ 単元評価記入シートを活用した、抽出生徒の変容の見取り

学年ごとに2名の生徒を抽出し、その生徒たちに焦点をあてて「自ら考えて行動する」姿の変容を検討した。単元評価記入シートを活用することで、単元を通して抽出生徒にどのような変容があったかを協議しやすかった。生活単元学習に限らず、普段の姿における変容も振り返って見取ることで、効果的な手立ての検討に役立った。

### (2) 課題

#### ① 生徒の自主的な言動を引き出すための、生徒同士の関わりを増やす支援

学部授業研究会及び全校授業研究会では、生徒の自主的な発言や行動を増やすための手立てについて話題になった。対話的な学習活動を設定していても、教師との関わりが中心であったり、発言が一部の生徒に限られたりすることがあった。活動によってグループの大きさを変えたり、個々の生徒の目標に応じてグルーピングを工夫したりすることで、「自ら考えて行動する力」をさらに伸ばし、生徒同士の関わりや協力場面を増やすことにつながると考える。

#### <参考文献>

新潟県立教育センター「主体的・対話的で深い学びの推進」プロジェクト(2018)：主体的・対話的で深い学び 実践ハンドブック

知的障害のある児童・生徒を対象とした教育内容・方法の充実事業報告（東京都教育委員会）

<<https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/documents/d/kyoiku/kyouka03houkoku01>>

(参照日 2025. 7. 25)

# 高等部の研究

## 高等部の研究

### 1 高等部の目指す生徒像

- (1) 健康と安全に気を付け、規則正しい生活をする生徒
- (2) 互いを認め合い、共に高め合える生徒
- (3) 自分の力で最後までやり遂げるたくましい生徒

### 2 高等部の目指す「自ら考えて行動する」姿

- (1) 互いに考えを伝え合い、学習課題を解決しようとする生徒
- (2) 目標や理想の姿に向かって挑戦しようとする生徒

### 3 研究の方法

- (1) 各学年で生徒2名を抽出し、単元を通した「自ら考えて行動する」姿の変容や有効だった手立てを記録する。
- (2) 全学年が単元検討会、学習指導案検討会を実施し、授業づくりの視点や自立活動の視点を踏まえた手立てや目標、学習活動を検証する。
- (3) 対話的な学習活動の質の向上に向けた、考える状況（発問、教材、グルーピング）の検討や職員研修を実施する。

授業づくりの視点	主な内容
対話的な学習活動の設定	<p>高等部における対話的な学習活動は、次のとおりとする。</p> <p><b>共に考えを作り上げる学習活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協働して解決する価値や意義のある課題の提示</li> <li>・自分たちで選択した既習知識や方法を活用した課題解決</li> </ul> <p><b>協働して課題解決する学習活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人が自分の考えをもつ場の設定</li> <li>・課題解決のゴールイメージの共有</li> <li>・互いの考えを聴き合える集団の構築</li> </ul> <p>※「主体的・対話的で深い学び 実践ハンドブック」 (新潟県立教育センター) より抜粋</p>
教師の役割と働き掛けの工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>○発問 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ねらいを明確にして応答を予測する。</li> <li>・多様な考えを引き出す発問の方法やタイミングを工夫する。</li> <li>・「ゆさぶる発問」で考えを見直す機会をつくる。</li> </ul> </li> <li>○グルーピング <ul style="list-style-type: none"> <li>・主体性につながったり、安心して活動したりするグルーピングを設定する。</li> </ul> </li> <li>○課題の設定 <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の興味・関心を起点にする。</li> <li>・具体的で身近な課題を設定する。</li> <li>・解決すべき問いを明確にする。</li> </ul> </li> </ul>

#### 4 研究の計画

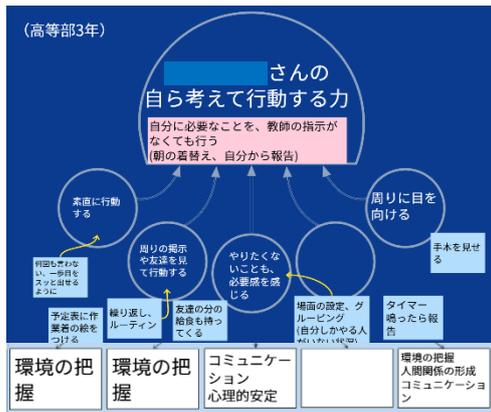
月	日	主な活動
4	24	学部研究会① 生徒の「自ら考えて行動する」具体的な姿の検討
6	24	学部研究会② ・単元における「自ら考えて行動する力」と「対話的な学習活動」についての検討
8	22	学部研究会③ ・自立活動に関する学習会 講師：菅原咲希子教育専門監 「自立活動を意識した手立て」の視点に沿った授業づくりについて
9	10	初任者授業研究会 授業提示：高等部2年 生活単元学習（単元構成検討会、学習指導案検討会）
9	17	初任者授業研究会 授業提示：高等部1年 生活単元学習（単元構成検討会、学習指導案検討会）
9	26	全校授業研究会 授業提示：. 高等部3年 生活単元学習（単元構成検討会、学習指導案検討会）
10	30	学部研究会④ ・抽出生徒の変容について検証（中間評価） ・学部授業研究会について ・全校授業研究会の成果と課題
12	19	学部研究会⑤ ・学部授業研究会（全校授業研究会 事後授業研究会） 授業提示：高等部3年 生活単元学習（単元構成検討会、学習指導案検討会）
1	20	学部研究会⑥ ・抽出生徒の変容について検証
3	18	学部研究会⑦ ・今年度の成果と課題 ・次年度に向けて

#### 5 研究の実際

##### （1）学部研究会の取組

##### ① 自立活動の視点からの「自ら考えて行動する」姿について検討

学部研究会①②では、生徒が自ら考えて行動するためには、自立活動の力が重要であるということをも学部で再確認するため、各学年から対象生徒2名を抽出し、目指す「自ら考えて行動する姿」、それを下支えする自立活動の領域や支援の在り方を検討した。高等部3年生では、「自分に必要なことを、教師の指示がなくても行う」という力を身に付けるためには、「素直に行動する（環境の把握）」、「周りの提示や友達を見て行動する（環境の把握）」、「やりたくないことも必要感を感じる（コミュニケーション、心理的な安定）」、「周りに目を向ける（環境の把握、人間関係の形成、コミュニケーション）」という自立活動の力が重要であると挙げられた（次頁資料1）。それを基に、生活単元学習における目指す姿や手立てを話し合い、目標や手立ての共有、年間指導計画への反映につなげた。



実際、行動派の特徴  
 ありがとうが言えない。やってもらおうが当然だと思っている。好きな活動やルーティンは自分から動く。挨拶は自分から大きな声で言える。  
 困ったときに、黙って座っている。受け身なことが多い。  
 言葉のやりとりがほとんど少ない。  
 わざと触ったり、イタズラしたりする関わりをする。

〇高等部 3 年 生活単元学習 単元名: SDGsをもっともっとうちげよう

学習活動、状況	予想される生徒の行動	目指す(期待する)生徒の姿	手立て
普段の学習、係活動など	他者からの手助けがあるまで動かない	自分から活動に取り組み、最後まで取り組む。	自分で完結する活動の提示
外部に太鼓を教えに行く(一緒に叩く)	動かない、受け身	太鼓の打ち方のみほんを見せる	得意なパートを任せる

資料 1 : 「自ら考えて行動する力」を下支えする力とは？

② 単元評価記入シートによる PDCA サイクルの確立と、単元構成検討会の実施

自立活動実態シートを活用し、自立活動の視点を取り入れることに留意しながら、全学年が単元構成検討会・学習指導案検討会を実施した。単元構成検討会では、単元の中でどのような対話的な学習場面を設定していくかということや、単元を通して身に付けさせたい力などについて、活発に意見交換された。学習指導案検討会では、学習活動や支援の妥当性を検討したり、授業者の悩みを共有したりした。また、単元評価記入シートで、単元の始め、中間、終わりで評価を行った。単元の始目には自分から挙手をして発言する姿は見られなかったが、単元が進むにつれ、グループの友達に意見を伝えたり、挙手をして発言したりする姿が見られるようになった(資料2)。これにより、生徒の変容や有効だった手立てを全職員で共有でき、授業改善につなげたり、指導の根拠にしたりした。

単元名	曲耀太鼓の魅力を伝えよう
単元目標 (全体)	知識及び技能 <ul style="list-style-type: none"> <li>・太鼓交流会について知り、準備をしたり、交流会に参加したりする。</li> <li>・自分なりの伝え方が分かって、相手に伝える方法が分かる。</li> </ul> 思考力、判断力、表現力等 <ul style="list-style-type: none"> <li>・曲耀太鼓の魅力を伝えるために、内容や相手に伝わるような伝え方について、考えを出し合って、まとめる。</li> </ul> 学びに向かう力、人間性等 <ul style="list-style-type: none"> <li>・太鼓交流会に向けて、自分の役割を進んで行ったり、友達と協力して行ったりする。</li> </ul>
単元目標 (個別)	・太鼓交流の振り返りで、考えたことを、最後まで相手に伝わるように説明したり、友達の考えに意見を伝えたりする。
9/3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・順番に発表者になると分かっているときは、自分の番に備えて考えをまとめていた。全体に伝わるように最後まで話し、自分の考えを発表できた。</li> <li>・全体の場で意見を問われたとき、自分から積極的に挙手して発表する場面はなかった。</li> <li>・グループでロイロノートを使い、曲耀太鼓のアピールポイントを考えたが、2年生のときに聞いた教師の話覚えており、「牛の皮を使っているので命をもらっている。大切に扱わない」という意見を出した。</li> </ul>
9/5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで考えた意見を発表し合ったが、「同じです」「似ています」のフレーズを使いながら、グループのメンバーと意見を交換し合っていた。</li> <li>・考えを相手に伝わるようにはっきりと話していた。</li> <li>・(欠席者が多かったためか)、意見を発言する場面が多かった。</li> </ul>
9/10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他校の太鼓を見ながら、時折気付きを声に出しながら、他校との違いについて考えていた。</li> <li>・全体の場で意見を問われたとき、控えめではあるが、挙手する姿勢が見られたので、「発表をどうぞ」と教師が促すと意見を発表した。</li> </ul>
9/17	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲耀太鼓の3曲について、インタビューのVTRを見ながら、「いつできたのか」「どうして曲ができたのか」について意欲的に聞き取りを進めた。</li> <li>・意見の発表についても意欲的だった。友達の見解を受けて自分の意見を話す様子も見られた。</li> <li>・インタビューで質問することについても、時間の確保で自分の意見をもち、発表できた。</li> </ul>

9/18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲耀太鼓の3曲の特徴やリズムを考えたが、前回より意見を言うことに消極的だった。(考える課題が多かったこと、予定の時間でない時間に行ったこと、全員が集まった状態だったこと、など原因は様々考えられる)</li> <li>・「賛成です」「似ています」「同じです」の定型フレーズを提示したところ、それを使って意見を述べた。</li> </ul>
9/19	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲耀太鼓の3曲の特徴やリズムを考えたが、前回より意見を言うことに消極的だった。</li> <li>・過去に太鼓を教えていた先生へのインタビューでは、ハキハキとした話し方で、最後までわかりやすく質問を伝え、聞き取りをした。また、インタビュー後の振り返りでは、質問への答えをしっかりと聞き取れたことがわかった。</li> </ul>
9/22	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表では予定変更もあったが受け入れ、自分の担当の箇所についてしっかり話すことができた。</li> <li>・太鼓を教えるときは、自分から動くことができず、「一緒にやってみたら？」という教師の言葉掛けに応じることができず、栗田支援学校の生徒が叩く横で見守る感じで質問に備えていた。</li> </ul>

## 資料2：単元評価記入シート

### ③ 抽出生徒を中心とした研究協議の実施

抽出生徒2名を中心に研究協議を行った。授業参観の視点として「互いに考えを伝え合い、学習課題を解決しようとする姿」と「目標や理想の姿に向かって挑戦しようとする姿」の2つを提示したことで、より協議が焦点化された(資料3)。成果として、授業の約束事や話し合いのルール、気持ちのよい相づちの例を提示したことがスムーズな話し合いにつながっていた、タブレット端末で個人の意見を記入した後に意見交換をしたことで話し合いが深まった、安心できるグルーピングの工夫等の意見が出た。課題は、話し合うテーマが多かったことや話し合いを生徒たちがまとめる時間を確保すること等が挙げられた(資料3)。指導助言では、話し合いのテーマが多いときには、学習形態を変えるなどの変化を付けることで、同じ熱量で話し合うことができるのではないかと、めあてに直結するような発問があれば生徒の思考が深まるなどの話題が挙げられた。今後は話し合いのテーマを精選したりまとめる時間を確保することや他者アンケートを活用したりすることなどが検討された。

生徒の「自ら考えて行動する」姿を引き出すための手立ては有効だったか。		6 班	
互いに考えを伝え合い、学習課題を解決しようとする姿		目標や理想の姿に向かって挑戦しようとする姿	
<p>まとめる場面と同じ人が挙手するやよい</p> <p>班の発表の機をまとめる方法 2班からの意見のみ 個人の意見が反映されていない 幸彦</p> <p>1人の意見が板書に反映される 里美</p>	<p>安心できる集団の大きさ 熊谷</p> <p>気持ちのよい相づちの意識 熊谷</p> <p>肯定的な相組</p>	<p>自分の意見を聞き比べた上で、自分の意見を積極的に発表する姿 青木</p> <p>沢山の意見 熊谷</p>	<p>課題点が複数あげられていたことやよい</p> <p>安心できる集団の大きさ 熊谷</p>
<p>まとめる場面 時間配分と決め方 個人で決める、班の人数で相談など やよい</p> <p>まとめる場面 教出方法のバリエーション 同じですサイン、指差し、口で投票など やよい</p> <p>複数の生徒の意見が板書にまとまるようないかけがあればよいのでは 里美</p>	<p>教師が生徒を繋ぐ 熊谷</p> <p>理由を話す機会の確保 熊谷</p>	<p>いろいろな意見の情報を確認し、理解を促すための支援 文字を読み取る文字を速く読める？ 青木</p> <p>次時へのつなぎ</p>	<p>自分たちの活動が相手から評価される。感謝される機会の設定 青木</p> <p>分かりやすく、効率よく伝え合うために→定型の提示 青木</p>

### 改善案

アンケートを先に出すことで、話し合いが焦点化される。

主観で相手のことを考えることは難しい。

振り返りをしぼる。叩き方は抜いてもいい。

どこをまとめるか。教師は我慢して。

資料3：協議シートと改善案 (第1回全校授業研究会より)

### ④ 全校授業研究会を踏まえた、学部授業研究会の実施

第1回全校授業研究会の成果と課題を踏まえ、改善授業として学部授業研究会を行うこととした。学部研究④では、第1回全校授業研究会の成果と課題を基に、グループごとに授業を提示した高等部3年生の成果や授業のよかったところ、次時に向けたアイデアを出し合った。学部授業研究会に向けたアイデアとして、曲耀太鼓の伝統や歴史を後輩に伝える単元や、太鼓の大変な面だけではなく、「楽しさ」を伝えていけたらよいなどの意見が出され、その後の授業改善に役立てた。

(2) 授業実践①【高等部3年 生活単元学習】

<p>単元名 魅力を伝えよう 曲耀太鼓① ～栗田支援学校との交流～（総時数 18 時間）</p>	
<p><b>単元の目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・太鼓交流会について知り、準備をしたり、交流会に参加したりする。【知】</li> <li>・自分なりの伝え方が分かって、相手に伝える方法が分かる。【知】</li> <li>・曲耀太鼓の魅力を伝えるために、内容や相手に伝わるような伝え方について、考えを出し合って、まとめる。【思】</li> <li>・太鼓交流会に向けて、自分の役割を進んで行ったり、友達と協力して行ったりする。【学】</li> </ul>	
<p><b>単元設定の理由</b></p> <p>本校の伝統である「曲耀太鼓」は、創立以来高等部3年生に受け継がれてきた。昨年度12月の引継式で先輩から太鼓を引き継いで以来、「曲耀太鼓」の伝統を伝えていきたい、さらにより演奏をしたいという思いを強くもって取り組んできた。太鼓を通して、自分の考えを整理して話すことや、自信をもって伝えることができるようになってほしいと思い、本単元を設定した。</p>	
<p>「自ら考えて行動する」姿を育むための手立て</p>	<p>生徒の変容</p>
<p>◎自分の考えをもつために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを書き出す時間を保障する。</li> <li>・書字の時間を削減するために、タブレット端末でロイロノートを活用する。</li> <li>・話し合いやすい雰囲気にしたたり、一人一人の意見を反映しやすくしたりするために、小集団での活動の場を設定する。</li> <li>・考えをまとめることができるように、手掛かりになる話形や穴埋め式シート等を準備する。</li> <li>・学習のルールとして、友達の意見を最後まで聞くことを周知する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の実態や関係性に応じた、意図的なグルーピングや、話しやすい雰囲気づくりを行ったことで、発言が少ない生徒や周りに任せがちな生徒の発言を引き出すことができた。</li> <li>・自分で考える時間の保障や、ロイロノートの活用が、自分の考えと向き合い、考えをまとめたり自信をもって発言したりする姿につながった。</li> </ul>
<p>◎考えて行動するために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対話的な学習活動では、友達の考えを聞くときの視点として、自分の考えとの共通点や相違点を見付けながら聞くことを示す。</li> <li>・曲耀太鼓の魅力が伝わるような発表にするために、提示物を制作する活動を設定する。</li> <li>・曲耀太鼓の魅力の伝わり方について、客観的な視点で判断できるように、交流相手にアンケートを依頼し、話し合いで活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ流れで繰り返し話し合いや制作活動を行ったことで、主体的な姿が増えた。中心になって話し合いを進めたり、自分の役割を理解して進んで活動に取り組んだりする生徒が多くなった。</li> <li>・アンケートで同世代からの意見や感想を聞いたことで、これまでの自分たちの頑張りを実感し、今後の改善案のヒントにしたり、今後の励みになったりした。</li> </ul>

9月26日(金) 全校授業研究会

本時の目標(本時13・14/14)

- ・太鼓交流会を終えて良かったことや改善点について、話し合いや掲示物の制作を通して、次の交流に生かすためのよりよい方法を考える。【思】【学】

協議内容(◇…成果 ◆…課題)

- ◇動画を見ながら話し合い、ロイロノートを活用し意見を事前に付箋に記入することで、具体的な意見がたくさん出た。
- ◇授業の約束事、話し合いのルールが周知されていた。
- ◇生徒が話し合いの進行をし、他生徒も協力的でグルーピングが良かった。
- ◇全員が課題の共有ができていた。
- ◇他校との交流という設定もよい
- ◆自分で付箋を貼る、動かすなども生徒の役割にする。
- ◆アンケートを先に出すことで話し合いが焦点化される。じっくりアンケートを見る時間もあればよい。
- ◆振り返りや話し合いのテーマが多かった。
- ◆めあてと振り返りをそろえる。
- ◆自分の考えを話すことが中心になっていた。話し合いをまとめる時間も設定する。
- ◆言葉が出てこない生徒への支援の工夫。

改善案

- 話し合いをより深めるために
  - ・生徒同士の距離を近くする。
  - ・アンケートをじっくり見て、話し合いのヒントにする。
- 自分で気付いて考えるために
  - ・生徒の意見やまとめを手元のタブレット端末だけではなく、モニターに映して共有する。
  - ・話し合いのテーマを精選する。まとめの時間を確保する。
  - ・付箋を動かすことなど、教師の役割を生徒の役割にする。

指導助言(本校 教頭 川越真紀子)

- ・話し合いの授業をするときにいつも言われることは、話し合いのための話し合いになっていなかったかということ。また何のためにここで話し合いをするのか、一斉授業ではなくグループ活動をしているのはなぜかなどを明確にしているか。また、話し合いを活性化するために必要なことは、自分の考えがしっかり明確化されていること。これらが前時の授業でできていた。それを付箋によって視覚化し、赤と青の色分けも良かった。それを一回反すうする時間、自分の考えをもう一度振り返る時間が最初にあってもよかった。
- ・話し合いの目的が、最初に先生の指示で明確にされていた。終わる時間も示されていたが、中の部分の時間配分もあればよかった。本時では核になる発問が6つあり、全てに同じ熱量で取り掛かるというのは難しかった。時間を区切る、発問の仕方、問いのバリエーション、学習形態のバリエーションなどを変えるなどすればよい。6つの発問に全て同じように取り組むのではなく、隣の人と話す時間、ここはもう一回自分の考え振り返るなどと変化を付けるとより話し合いが活性化されるのではないか。
- ・本時のめあての「何が伝わったのか」に対して、そのめあてに直結するような問いがあればもっとよかった。良かった点、課題点、改善点等に関する問いが中心だった。
- ・「発表を聞くと、しっかり自分の意見と自分たちのグループの意見と絡めて聞く」という指示があったことで、他のグループの発表を受け止めて、自分の考えと照らし合わせて考えることにつながった。自分が最初にもっていた考えがどう変わったのか、新たな気づき、どのように考えが深まっていくのかなどの実感があれば次の学習や他の科目にもつながっていくのではないか。

(2) 授業実践②【高等部1年 生活単元学習】

<p>単元名 「みんなのためにやってみよう～わくわく運動会に向けて～」(総時数22時間)</p>	
<p><b>単元の目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交流相手に合った企画を運営する。【知】</li> <li>・ 必要な小道具を製作する。【知】</li> <li>・ 自分たちができることを生かして準備、運営をする。【思】</li> <li>・ 自分の考えをもち友達と伝え合う。【思】</li> <li>・ 楽しい運動会にするために、友達と協力して活動する。【学】</li> <li>・ 発表の中で自分の役割を果たす。【学】</li> </ul>	
<p><b>単元設定の理由</b></p> <p>児童生徒の実態として教師や友達との関わりが増え、活発に活動したり友達同士で会話を楽しんだりする姿が見られるようになってきた。普段の学習では、改まった場面やみんなの前で自分の意見や考えを発表するのは苦手だが、言葉によるやりとりをしながら学習を進めている。「みんなのためにやってみよう」は年間を通した単元であり、誰かのために活動し喜んでもらう体験を重ねることで、相手も自分もうれしくなる気持ちを味わい、そのことを通して自信がもてるようになることをねらいとしている。生徒が友達の意見を聞いて良いところを取り入れたり、役割に責任をもって最後までやり通したり、みんなのために苦手なことにも挑戦してみようとしたりできるようになるのではと考え本単元を設定した。</p>	
<p>「自ら考えて行動する」姿を育むための手立て</p>	<p>生徒の変容</p>
<p>◎自分の考えをもつために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の意見を出せるように一人で考える時間を保障する。</li> <li>・ 活動を進める際に出てきた課題や悩みを「悩みポイント」と称してお互いのグループで意見交換する。</li> <li>・ 企画の際は、一人一人が意見を出しやすいように、運営の際は役割を明確にしたり、小グループで活動したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達関係を考慮して小グループにしたことで安心して自分の意見が言えるようになった。</li> <li>・ 悩みを羅列したり、悩みを絞り込む作業をしたりしたことで他のグループに伝わりやすい方法に気付いた。</li> <li>・ 題材が生徒の興味関心のあることだったので意見がたくさん出た。</li> </ul>
<p>◎考えて行動するために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 話し合い活動は進行表の通りにいつも同じ方法で行う。</li> <li>・ 一人一人が「わくわく運動会」の成功に貢献できるように、役割など自分で選ぶ場面を設定する。</li> <li>・ 全員で「わくわく運動会」を成功させるという気持ちをもてるようにグループ活動の後には全体に活動内容を知らせる場面を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 進行表通りにはいかなかったが、繰り返し話し合いを行ったことでグループでのやり方が確立していった。</li> <li>・ 生徒自身が自主的に役割を選んだことで最後まで責任をもってやりきった。</li> <li>・ 全体に活動内容を知らせる場面を設けたことで、他のグループにアドバイスをしてみんなで成功させようという気持ちももてた。</li> </ul>

9月17日(水) 学部授業研究会

本時の目標(本時7・8/22)

- ・実演の振り返りを通して改善点を明確にし、わくわく運動会の準備を進める【知】【思】

協議内容(◇…成果 ◆…課題)

- ◇グループの人数が適正だったので話し合いが活発に進んだ。
- ◇グループごとに種目を作り上げていくことで前向きに取り組んだ。
- ◇悩みポイントとして話し合いのテーマを提示したことで話し合う内容が分かり、見通しをもって取り組んだ。
- ◆実演の児童役は教師が小学生になりきってやってもよかった。
- ◆悩みポイントの数が多すぎた。短い言葉で伝える方がよい。
- ◆生徒主導の話し合いが難しかった。
- ◆付箋での話し合いでは真逆や真横から見ている生徒がいた。学習支援アプリでもよかったのではないか。
- ◆付箋を見合う時間が必要だった。

改善案

- 対象児童の実態をより詳しく伝えることで安心して関わるができるようにする。
- 児童役を教師が演じることにより望ましい言葉掛けや関わり方のモデルを提示したり活動の見通しをもたせたりする。
- 一人一人と関われるように交流相手の人数を減らす。
- 経験数を増やし言葉掛けや対応の仕方が身に付けられるようにする。
- 生徒が実際に経験してみることで、活動内容や手順を視覚的に理解できるようにする。

指導助言(本校 教諭(兼)教育専門監 菅原 咲希子)

- ・悩みポイントという視点は良かったが、生徒に掲示する量が多かった。
- ・小学部の児童だけでなく周囲の友達にも伝わっているかなども意識できると良かった。
- ・生徒が主導の話し合いが初めてということだったので、今日は教師が手本を示す方が良かった。意見を拾う場面を見せるのも効果的。
- ・一つの事柄について「付箋を書く→貼る→意見をまとめる」流れを繰り返し取り組むことでスキル向上が期待される。

(2) 授業実践③【高等部2年 生活単元学習】

<p><b>単元名</b> 「みんなで横手旅～横手を知って楽しむ宿泊学習～」(総時数29時間)</p>	
<p><b>単元の目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 宿泊学習の日程や活動内容、ねらいなどを理解する。【知】</li> <li>・ ルールや工程、手順を守り安全に調理ができる。【知】</li> <li>・ 活動を振り返り、まとめたりお礼状を書いたりする。【知】</li> <li>・ 日程や活動に必要な物や役割について意見を出したり話し合ったりする。【思】</li> <li>・ 安全に調理できるように役割分担をし、声を掛け合って調理に取り組む。【思】</li> <li>・ 良かった点、改善点などをまとめ、文章で表現する。【思】</li> <li>・ お互いの意見を認め合ったり、譲り合ったりして活動しようとする。【学】</li> <li>・ 役割や担当する工程に責任をもち、周囲と声を掛けながら活動しようとする。【学】</li> <li>・ 活動を通して得た学びを次の学習に生かそうとする。【学】</li> </ul>	
<p><b>単元設定の理由</b></p> <p>高等部生になり初めての外泊を伴う集団生活となる。意欲をもって宿泊学習に参加することができるように事前学習では持ち物や当日の活動場所、活動内容、日程などの確認、日程表やしおりの作成、調理実習などに取り組む。当日は調理実習や公共施設の見学、飲食店での食事などを予定している。事後学習ではお礼状の作成や振り返りに取り組む。これらの活動を自分たちで進めることができるように、取り組み方を話し合ったり、協力して活動ができるように自分たちで役割分担をしたりする場面を設定する。自分たちで判断、決定して活動を進める中で、友達の意見を受け入れてアイデアを膨らませたり、友達と譲り合って活動したりすることで、相手のことを考えながら自分の気持ちを伝える力が身に付くことが期待されると考え、本単元を設定した。</p>	
<p><b>「自ら考えて行動する」姿を育むための手立て</b></p>	<p><b>生徒の変容</b></p>
<p>◎自分の考えをもつために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考える手掛かりとなるように、施設の写真や調理のレシピなどの資料を提示する。</li> <li>・ 考えをまとめて伝えることができるように、友達や教師と一緒に考え、全体で発表する場面を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 調理する場所やカレー作りに使用する具材などを事前に確認し、提示したことで自分の意見を出すことができた。話し合い活動では友達の意見に賛同したり、違う案を提案したりする様子も見られた。</li> <li>・ 友達や教師と一緒に意見をまとめたことで自信をもって発表することができた。まとめ方や簡素な発表の話型を準備したことで、参考にして意見をまとめていた。</li> </ul>
<p>◎考えて行動するために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アイデアや考えを発展させることができるように、友達の意見を聞く時間を設ける。</li> <li>・ 話し合いを円滑に進めることができるように司会などの役割やルールを提示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 話す順番を決めるなど、友達の意見や考えを聞く時間を設けた。発表を聞き、まとめることで新たなアイデアやよりよくするための意見を出そうとした。</li> <li>・ 友達の意見を最後まで聞くなど、話し合いのルールを提示したことで、自分たちで話し合いを進められた。また役割を決めたことで責任をもって取り組む様子が見られた。</li> </ul>

<p>9月10日（水） 学部授業研究会</p>
<p>本時の目標（本時17, 18/29）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールや決まりを守りながら話し合いを進め、調理に必要な役割を決める。【知】【思】</li> </ul>
<p>協議内容（◇…成果 ◆…課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇発言するときのルール（挙手→返事→起立）ができていた。</li> <li>◇導入は新しい学習に切り替わるタイミングは少し長めに時間を確保してよい。</li> <li>◇話し合うテーマが簡単であったため、多くの意見が出た。</li> <li>◆時間が予定よりも掛かってしまった。</li> <li>◆話し合うテーマや活動量が多い。</li> <li>◆話し合いが停滞したときの教師の支援。</li> </ul>
<p>改善案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○T1がタイムキーパーになれば良かった。</li> <li>○話し合うテーマの数を事前に伝えると良かった。</li> <li>○一人だけではなく、他の生徒の話も聞くことができると良かった。</li> <li>○話し合うためのヒントがもう少しあっても良かった。</li> </ul>
<p>指導助言（本校 教頭 川越真紀子）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・導入について、学習活動が変わるタイミングの授業では導入を丁寧に行うことは大切である。本時程度の時間（約20分）を使用してもよい。</li> <li>・教師間や各グループの教師からの言葉掛けが良かった。</li> <li>・平成27年度授業改善プロジェクトをもとに授業を振り返る。生徒がこの後の調理実習の必要性を感じて主体的に話し合いに取り組んでいた。導入が丁寧で良かった。話し合いの中で生徒の中からたくさんの意見が出ていた。</li> <li>・話し合うことで役に立つことがあると今後も思えるように、学習活動に生かしていくことが大切である。</li> </ul>

(2) 授業実践④【高等部3年 生活単元学習】

<p>単元名 魅力を伝えよう 曲耀太鼓② ～太鼓引継式・太鼓講習会に向けて～</p>	
<p><b>単元の目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・太鼓引継式や講習会について必要な物を知り、準備する。【知】</li> <li>・自分なりの伝え方や相手に伝わりやすい方法が分かる。【知】</li> <li>・曲耀太鼓の魅力を伝えるために、内容や相手に伝わるような伝え方について、考えを出し合って、意見をまとめる。【思】</li> <li>・太鼓引継式や講習会に向けて、自分の役割を進んで行ったり、友達と協力して行ったりする。【学】</li> </ul>	
<p><b>単元設定の理由</b></p> <p>太鼓が好きで、太鼓の学習に意欲的に取り組む生徒が多い。他校との交流学习や最高学年として様々な場所で演奏してきたことを通して、下級生にも「曲耀太鼓」の伝統を伝えていきたいという思いをもち、授業内でも「継承したい」という発言が見られた。高等部2年生への太鼓講習会を通して、これまで自分たちが大切にしてきた思いや伝統を言葉にまとめて、適切に伝えることができるようになってほしいと思い、本単元を設定した。</p>	
<p>「自ら考えて行動する」姿を育むための手立て</p>	<p>生徒の変容</p>
<p>◎自分の考えをもつために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの意見を記したプリントを用意し、友達と操作しながら整理する時間を設定する。</li> <li>・個人で考える時間と、友達と自由に話す時間を保障する。</li> <li>・話し合いを焦点化できるように、話し合いのゴールを明確化する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一つの考えに固執するときもあるが、友達の意見を聞いたり、考えを深めたりしていくなかで、切り替えてよりよい意見を考えられるようになってきた。</li> <li>・じっくり一人で考える時間を保証したことで、自分の力で考え、最後まで伝えられるようになってきた。友達とのやりとりの中で、考えをさらに深めたり、自分の気持ちに折り合いを付け相手の考えを認めて共感したりすることが増えた。</li> </ul>
<p>◎考えて行動するために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・役割分担を提示し、物の配置や動線を固定したり、見本や写真を用意したりする。</li> <li>・グループの考えを整理するために、考えの共通点や、相違点に着目するよう伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒同士で役割分担を考えたり、協力して活動を進めようとしたりする姿が見られるようになった。</li> <li>・安心できるグルーピングや、繰り返しの活動の中で、自分の言葉で順序立てて話すことができるようになってきた。話し合いを進めたり結論をまとめたりする役割を生徒自ら担うことが増えた。</li> </ul>

12月19日(金) 学部授業研究会

本時の目標(本時13・14/23)

- ・曲耀太鼓の基礎を意識しながら講習会の内容について話し合いをしたり、講習会の招待状やフリップを制作したりして、よりよい講習会を目指して活動に取り組む。【思】【学】

協議内容(◇…成果 ◆…課題)

- ◇グルーピングや座席配置、対話的な学習の積み重ねが、友達同士で話しやすい雰囲気につながった。
- ◇話し合いのゴールが明確で、テーマに沿った意見交換ができた。
- ◇自由な話し合いの形式が活発な意見を引き出すことにつながった。
- ◆話し合いの進行やまとめの場面で、教師の支援を減らして生徒の役割を増やしたい。
- ◆情報量が多かった。

改善案

- より話し合いを深めるために
  - ・自分の発言に責任をもてるよう、あえてグループごとに話し合いのテーマを変える。
  - ・教師は肯定的な相づちや意見に対する生徒への問い掛けを行う。
  - ・話し合いの材料(前時に生徒から出た意見)を精選または、仕分ける時間を設定する。
- 効果的なまとめのために
  - ・グループに分かれたときに、T1は各グループの写真や動画を記録し、まとめで共有するなどグループをつなぐ役割を担う。

指導助言(本校 教頭 川越真紀子)

生徒間及び先生との信頼関係がよく築かれており、その安心感の中で活発な話し合いが展開されていた。2年生時代の写真や活動記録を提示するなど、生徒が考えやすい環境づくりが丁寧に行われていた。紙による意見の整理や、意見を貼って動かす活動が生徒の思考を促進していたこと、教師が生徒の発言をうまくまとめて次の意見へとつなげていたことなど、授業構成の工夫もあった。一方で、情報量が多く整理が難しい場面もあったため、内容を「ルール・マナー」「技術」「思いや伝統」などカテゴリーごとに分類して提示したり、「基礎」「初級」に関するもののみを選ぶ工夫をしたりすること等も考えたい。総じて、生徒たちは2年生に伝えたいという強い思いと、太鼓活動への誇り・プライドをもち、主体的に学び合う姿勢を見せており、授業全体からこれまでの学習の積み重ねと教師の丁寧な指導が伝わるものとなっていた。

## 6 成果と課題

### (1) 成果

#### ① 自立活動の視点を踏まえた実態の共通理解と支援の焦点化

生徒一人一人の特性を自立活動の視点から分析し、全教員で共有した。これにより生徒の行動の理由が明らかになり、その行動の背景にある様々な要因に目を向けた支援が可能となった。また、実態把握に基づき、単元における「目指す姿」を明確化したことで、教員間の指導方針が一致し、生徒が主体的に学習に取り組むための手立てや環境の設定ができた。

#### ② 単元評価シートによる生徒の変容の可視化と指導への還元

単元を通じた継続的な評価を行うため「単元評価シート」を活用し、生徒の変容を記録した。教員間で定期的に共有・検討することで、設定した手立ての妥当性を客観的に検証するサイクルが確立された。その結果、生徒の思考の深化や行動の変化を逃さず捉えることができ、生徒の自己肯定感を高めることにつながった。また、評価結果を次時の指導計画へ反映させることで、目標の精査と、より効果的な手立ての構築へとつながった。

#### ③ 学習意欲を喚起する「必要感」のある教材とICTツールの有効活用

生徒が目的意識をもって学習に臨めるよう、日常生活や将来の自立に直結する「必要感」の高い教材及び学習課題の提示を重視した。生徒の興味・関心が高い教材を提示し、学習内容と実生活を関連付けたことで、生徒の内発的な動機付けが図られ、自発的に問いを解決しようとする、自ら考えて行動する姿の表出につながった。また、ICT（学習支援アプリ）や付箋紙で、抽象的な思考を視覚化（カード化）したことで、情報整理や書字に困難さを抱える生徒も、意見を表出したり、他者の視点と結び付けたりすることが容易となった。

### (2) 課題

#### ① 生徒が話し合いをまとめる力の育成

生徒が意見を発信し、他者の考えを肯定的に受け入れる過程については着実な成長が見られた。しかし、話し合いの司会やまとめを、教師の主導で進める場面がまだ多かった。生徒が自分で話し合いを進め、出た意見を集約したり結論を出したりできるよう、異なる意見から納得する答えを見いだすための方法や、気持ちの折り合いの付け方の指導が必要である。

#### ② 考えを深化させるための主発問の精選と「めあて・発問・まとめ」の一貫性

教師の発問が必ずしもめあての達成に直結しておらず、まとめが主題からずれる場面があり、めあてからまとめまで、一貫性のある授業を展開していくことに課題が残った。また、生徒の主体性を重視するあまり、一時間の中に盛り込むテーマや問いの数が過多となることがあった。今後は主発問の精選や、生徒が試行錯誤するための十分な時間を確保し、じっくりと課題に向き合える授業展開を構築することが、今後の課題である。

# 寄宿舎の研究

## 寄宿舎の研究

### 1 寄宿舎の目指す生徒像

- (1) 健康と安全の大切さを知り、規則正しく生活する生徒
- (2) 互いを認め合い、協力し合う生徒
- (3) 目標に向かって進んで取り組み、最後までやり遂げる生徒

### 2 寄宿舎の目指す「自ら考えて行動する」生徒の姿

- ・日常生活で培った力を場面が変わっても発揮できる生徒
- ・これまでの経験からやりたいことや自分でできる方法を選択する生徒

### 3 研究の方法

次の方法で、活動づくりの視点の有効性を検証する。

- ・視点に基づいた活動「舍外活動」「寄宿舎生活課題改善プロジェクト」の設定と評価
- ・生徒一人一人の考える力を育むための有効な手立ての共通理解と話し合い活動の設定
- ・自己評価シートを活用した生活指導の改善と評価

活動づくりの視点	主な内容
「主体的・対話的で深い学び」の活動の設定	<p><b>興味や関心を高める活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性の感じられる課題の設定</li> <li>・解決までの道筋の提示</li> </ul> <p><b>自分と結び付ける活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学んだことを自分にフィードバックする場面の設定</li> </ul> <p><b>振り返って次へつなげる活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りを言葉として整理</li> <li>・振り返りの共有</li> </ul> <p><b>共に考えを創り上げる活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協働して解決する課題の提示</li> <li>・自分たちで選択した既得の知識や方法を活用した課題解決</li> </ul> <p><b>協働して課題解決に向けた活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人が自分の考えをもつ場面の設定</li> <li>・互いの考えを聴き合える集団の構築</li> </ul> <p><b>互いの考えを比較する活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・考えの根拠や思考過程の可視化</li> <li>・視点を明確にした話し合いの場の設定</li> <li>・互いを認め合える集団構成</li> </ul>
職員の役割と働き掛けの工夫	<p><b>【話し合い活動】</b>・グルーピング ・環境設定 ・個に応じたツール</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員からの指示、説明、発問</li> <li>・課題の設定と提示の工夫</li> </ul> <p><b>【日常生活】</b>・有効な場面の選択と働き掛け</p>

#### 4 研究計画

月	日	研究会等	実施内容
4	11	寄宿舎研究会①	・「自ら考えて行動する力」を育むための具体的な指導方法の検討 ・模擬体験（折り紙での伝え方）
5	2	寄宿舎研究会②	・寄宿舎における対話的な活動の検討
6	6	寄宿舎研究会③	・活動づくりの視点の提示 ・対象とする活動の提示
7	11 28	寄宿舎研究会④ 全校研究会	・取組1「舎外活動」の活動計画の具体案の提示 ・教育専門監からの講義
8	25	寄宿舎研究会⑤	・取組1「舎外活動」各グループの話合い活動指導計画の作成① ・取組1「舎外活動」実施に向けての事前研修
9	5 30	寄宿舎研究会⑥ 寄宿舎計画訪問	・取組1「舎外活動」各グループの指導計画の作成 ・寄宿舎研究の概要説明（舎外活動グループ発表）
10	3	寄宿舎研究会⑦	・取組1「舎外活動」実施と評価 ・取組2「寄宿舎生活課題解決プロジェクト」の計画と内容の検討
11	7	寄宿舎研究会⑧	・取組2「寄宿舎生活課題解決プロジェクト」実施
12	5	寄宿舎研究会⑨	・取組2「寄宿舎生活課題解決プロジェクト」の評価
1	9 8	寄宿舎研究会⑩ 全校研究会	・年度末評価 ・授業実践の成果を教材・教具で見合う会
2	6	寄宿舎研究会⑪	・今年度の研究成果と課題の整理 ・次年度に向けて、生徒資料の整理
3	13	寄宿舎研究会⑫	・次年度に向けて
		毎月	・自己評価シートの記入と評価

#### 5 研究の実際

##### (1) 寄宿舎研究会の取組

##### ① 寄宿舎の目指す「自ら考えて行動する」姿の明確化と活動設定

寄宿舎研究会①では、自ら考えて行動するためには、「どのような力が必要か」「寄宿舎生活の中でどのように育むことができるか」について検討した。考えるためには、「基礎となる経験・知識」「様々な選択肢」が重要で、行動に結び付けるためには、日常生活の中で実践を積み重ねることが必要という意見が多く挙げられた。

寄宿舎は、生徒それぞれが時間を選択して生活できる場であり、中学部から高等部の異年齢での集団生活という特徴を生かし、生徒同士で学び合える活動を基本に、活動づくりの視点を考慮しながら二つの取組を設定した。取組1は、各学部の授業や活動で経験したことを応用し、楽しい活動を考える。取組2は、寄宿舎生活での個人、集団の課題について考える。二つの異なる内容の話合い活動を通して、学んだことを振り返ったり、友達の考えや思いを知ったりすることが集団生活の中で自ら考えて行動する姿につながると考え実践した。

##### ② 生徒一人一人の考える力を育むための有効な手立ての共通理解と話合い活動の設定

生徒との対話を通して、一人一人の「考えを深める」「考えを伝える」有効な方法について、部屋担当が検証後、寄宿舎研究会で共通理解し、生徒の話合い活動の指導案を作成した。部屋担当との一対一の対話で有効な手立てを集団でどのように生かすか、担当以外の職員が同じ手立てを講じてもできるか、相手が友達でもできるかなどについても検証し、改善しながら伝える機会を

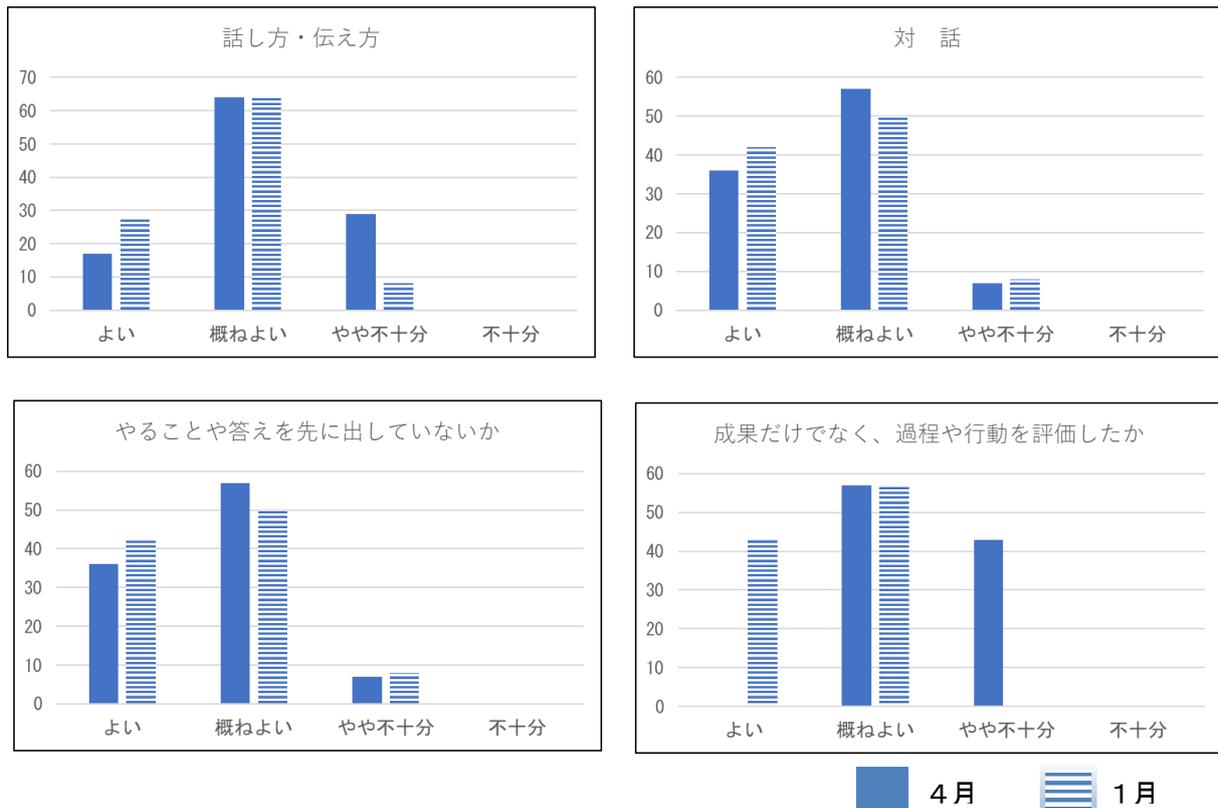
設定した。ただし、「考えを深める」については、集団での話し合いの際、説明だけでは理解に差が生じたため、聴覚だけでなく、視覚で情報を得ることができるようにした。

### ③ 職員の自己評価シートを活用した生活指導の改善と評価

毎月、日々の指導の振り返りの機会として自己評価シート（資料1）を実施した。今年度は、自己の振り返りに加えて、他者評価も取り入れ、集会、学習会、けやきタイムでの生徒への伝え方、伝わり方について話題提起したことにより、職員一人一人が事前にねらいや有効な手立てを検討し行えたことが、職員同士の学びの機会にもつながった。また、職員評価を数値化したことにより、意識の変化が明らかとなった。（資料2）

指導実践 自己評価シート		〈 10月 評価項目とまとめ 〉	
評価基準 : 4 (よい) - 3 (概ねよい) - 2 (やや不十分) - 1 (不十分)			
	【 4 】月	評価内容	集計結果
話し方 伝え方		話し方(大きさ、早さ、量)は適切だったか	4-3-2-1 17-64-29-0
対話		生徒の話を最後まで聞いているか	4-3-2-1 0-78-22-0
研究		やることや答えを職員が先に出していないか	4-3-2-1 0-64-36-0
		干渉しすぎしていないか	4-3-2-1 7-50-43-0
		「考えなくてもできる」環境をつくっていないか	4-3-2-1 0-57-43-0

資料1：毎月実施した職員の自己評価シート



資料2：自己評価シート 評価の推移

(2) 実践① 【舎外活動】

<b>活動名 「大曲のいいところ探し」</b>	
<b>活動のねらい</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちで地域の情報を集め、計画を立てながら活動を進める。</li> <li>・自分の役割や集団生活のルールを自覚し、安全に行動する。</li> </ul>	
<b>設定の理由</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学部、高等部ともに、クリーンアップ活動や校外学習、販売活動で大曲駅周辺へ行ったことがある。また、中学部、高等部3年生は、修学旅行で行く場所を調べて、計画を立てる経験をしている。</li> <li>・家族との外出先はイオンモール大曲が多く、自分が住んでいる大曲（地域）の知識が少ない。</li> <li>・舎外活動は生徒が楽しみな活動の一つであるが、これまで生徒主体で計画する機会がなかった。</li> </ul>	
<b>「自ら考えて行動する」姿を育むための手立て</b>	<b>生徒の姿容</b>
<b>◎興味や関心を高める</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで経験したことのある活動、場所の設定</li> <li>・生徒が興味や関心をもてる掲示物の作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで授業などで大曲駅周辺での活動の経験があったため、今回、余暇の視点で生徒が意見を出し合い、大曲駅周辺の地図を作成した。作成する過程で、知っている場所を共有したり、行ってみたい場所や、やってみたいことを伝え合ったりしたことにより、情報を得る機会になった。</li> </ul>
<b>◎自分と結び付ける</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで経験してきたことをフィードバックできる時間の設定</li> <li>・卒業後の生活を想像したり、自分が住んでいる地域と比較したりする機会の設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・舎外活動の計画の話合いでは、修学旅行や校外活動など授業での経験について伝え合い、その言葉をヒントに計画を組み立てていた。</li> <li>・大曲駅周辺を知ったことで、「自分の地域には何があるか」「一人で買い物する場所はどこがいいか」などを考えるきっかけになっていた。</li> </ul>
<b>◎共に考えを創り上げる</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体例の提示</li> <li>・様々な情報や意見を可視化し、生徒同士で話し合う場の設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画を立てるヒントとして、職員が事前に下調べ（歩く時間、店舗状況、交通の利便性等）を行い、具体例を示した。具体例を手掛かりに、自分達の計画と照らし合わせて考えることができていた。</li> <li>・友達の意見を聞きながら、自分の考えと折り合いをつけながら計画していた。</li> </ul>
<b>◎互いの考えを比較する</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・より視野を広げることができるように、他のグループの計画を聞く機会の設定</li> <li>・互いを認め合える話合いの環境づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話合い活動では、話合いのルールを提示し、一人一人の意見をじっくり聞くようにした。そのことにより、伝える際は内容を整理して話したり、聞くときは相づちを打ったり、拍手をしたりして反応を示すようになった。</li> <li>・各グループで計画を立てた後に紹介を行った。各グループとも異なる内容の計画だったため、関心を示していた。また、活動後は、「他のグループの活動をしてみたい」「家族と〇〇に行ってみよう」という言葉が聞かれた。</li> </ul>

**本時の目標**

- ・行きたいところや、やりたいことを友達に伝える。
- ・グループの友達の意見を聞き、計画を立てる。

**協議内容（◇…成果 ◆…課題）**

- ◇自分の考えや思いを伝えることが難しい生徒については、話し合いの前に部屋担当と発表準備をして話し合いに参加したことでグループ全員の意見を聞き、活動を決めることができた。
- ◇生徒の相性を考えたグルーピングで回数を重ねたことにより、話し合いの際、友達のことを考えながら発言したり、発言を待ったりしていた。
- ◆この活動での生徒一人一人が目指す姿について、十分に検討できなかった。

**改善案**

- 生徒主体で計画できるように
- ・生徒同士の話し合いが想定していた以上に充実していたため、話し合いの時間が確保できなかった。検討内容を絞ることが必要だった。
- ・生徒の疑問に対して、生徒が理解できる説明をするために、職員がより細やかな情報収集をする。
- ・話し合い場面で職員が先導してしまうことがあった。指導計画作成の際、明確な職員の役割分担と最小限の働き掛けについて共通理解する。

**舎外活動の取組を日常生活へ**

**【生徒】**

- ・外出時の服装や身だしなみについて、考えるようになった。
- ・実習場所や内容など、友達に聞いていた。
- ・大曲（地域）のお菓子やお店に、興味を示すようになった。

**【職員】**

- ・掲示物について「興味関心」「目的」「見やすさ」「分かりやすさ」を考え、作成するようになった。
- ・自立活動実態シートを活用し、生徒の実態を多角的に見られるようになった。



写真1、2：生徒が作成した活動表



写真3：話し合いの様子



写真4：地図づくりの様子

### (3) 実践② 【寄宿舎生活の課題改善プロジェクト】

<b>活動名 「寄宿舎生活のよかったところ、残念だったところ」</b>	
<b>活動のねらい</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・寄宿舎生活のきまりやルールについて、定期的に考える。</li> <li>・集団生活では、互いが気持ちよく過ごすことができるように、自分と違う思いや考えを知る。</li> <li>・互いを認め合いながら生活できるように、解決方法について、生徒同士で考える。</li> </ul>	
<b>設定の理由</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで課題があった際、職員と課題解決に向けての話合いを行ってきたが、対話的活動を繰り返して行ってきたことで、生徒一人一人が自分に合った方法で自分の思いや考えを伝えることができるようになってきた。</li> <li>・職員との対話では、課題を自分ごととして捉えることが難しいが、友達と一緒に考えることで、友達の考えや思いを受け入れて、これまでの自分の課題を改めて振り返ることができると思った。</li> </ul>	
<b>「自ら考えて行動する」姿を 育むための手立て</b>	<b>生徒の変容</b>
<b>◎協働して課題解決する</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題を共有し、自分の思いや考えを友達に伝える場の設定</li> <li>・生徒の実態や話合いの展開を考慮したグルーピングの設定</li> <li>・話合いのルールの提示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寄宿舎のきまりやルールは理解していても、行動で現すことが難しかった生徒が、課題についての友達の困り感やアドバイスを素直に受け入れて考えることができた。</li> <li>・話合いの際、以前は解決方法のみを伝える生徒が多かったが、回数を重ねると解決方法だけでなく、理由や自分の思いも伝えられるようになった。そのことで、自分と異なる考えを知る機会となった。</li> </ul>
<b>◎自分と結び付ける</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学んだことを自分にフィードバックする場面の設定</li> <li>・様々な解決方法から自分に合った方法を選択し、実行する場の設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合ったことを生活の場で実践できるように、ポイントを絞って提示し、指導が必要な場面では、話合いでの発言を思い出せるような発問を行った。また、友達が提案した方法を提示すると、「それだったらできるかも」と自分でもできる方法を選択して行っていた。</li> </ul>
<b>◎振り返って次につなげる</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りを自分の言葉で伝える機会の設定</li> <li>・振り返りの共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施期間が長くなると意欲を持続することが難しいため、取り組み期間中に評価日を2回設け、部屋担当と振り返られた。</li> <li>・振り返ったことを全員で共有できるように、評価シートをプレイルームに掲示し、自分の評価をシートに記した。そのことにより、友達の頑張りを知り、次の評価日までに頑張ることを自分で決めることができていた。</li> </ul>
<b>◎考えを深めることができるように</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合う課題が理解できるように、課題の提示の工夫</li> <li>・職員の発問や説明の工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の提示の際、これまでは言葉での説明が多かったため、今回は動画を作成し提示した。この動画は、意欲教材、理解教材、思考教材として有効で、生徒が同じ観点で話合いを進めることができた。</li> <li>・職員は指導案作成を通して、個々の生徒の実態と有効な手立てを共有できたことで、自分の役割を把握し、話合い活動を生徒主体で行うことができた。そのことにより、生徒が自分たちの課題を意識することができた。</li> </ul>

**本時の目標**

動画を見て、自分の生活を振り返るとともに、互いの考えや思いを友達に伝え、解決策を考える。

**協議内容 (◇…成果 ◆…課題)**

- ◇動画は効果的で、集中して見る事ができたほか、課題についても理解して自分の考えを伝える事ができていた。
- ◇学部中心のグルーピングにしたことにより視点が絞られ、互いの発言に共感し、自分の生活と照らし合わせて考える事ができた。
- ◇発言の際、友達のことを考えた伝え方をしていた。(「〇〇しようね」など)
- ◆課題の解決策については、これまでの経験から答える事ができたが、解決しなければいけない理由や課題についての自分の考えや思いを引き出すには、具体的な問い掛けが必要だった。

**改善案**

- 実態に応じた振り返りができるように
  - ・話し合いの内容、生徒の相性に配慮してグルーピングをしたが、それでも生徒の参加姿勢にばらつきがあったため、生徒に応じて事前事後の指導が必要だった。
- 解決方法を生活の場面で実行できるように
  - ・話し合い活動では、様々な解決方法を挙げることができたため、実際の場面でも解決方法を思い出して実行できるように継続して取り組んでいける機会を設定する。

**【寄宿舍生活の課題改善プロジェクト】評価**

- ・課題について、生徒同士で話し合い、自分の思いや考えを互いに伝え合ったことにより、自分とは異なる考え方があることに気付き、改めて自分の生活について振り返る機会となっていた。
- ・生徒同士の話し合いから課題を見いだせたことにより、課題解決に向けて「みんなで頑張っていこう」という気持ちが芽生え、生徒同士で言葉を掛け合うことが増えた。
- ・話し合い活動を通して、友達のことを知ったり、認め合ったりする機会になり、人間関係づくりにもつながった。

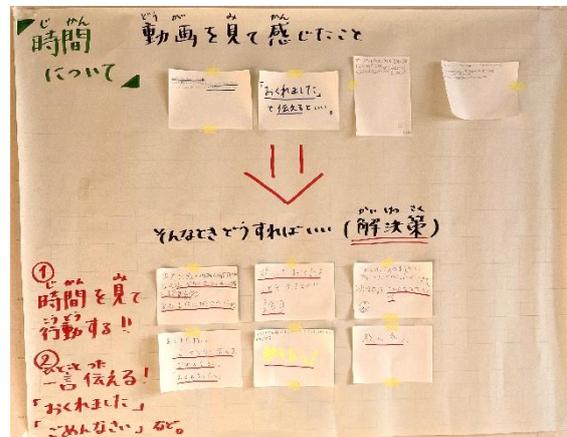
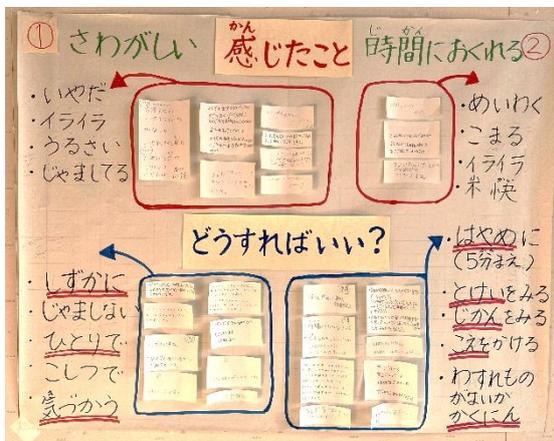


写真5、6 : 付箋紙を活用した協議内容のまとめ

## 6 成果と課題

### (1) 成果

#### ① 対話的な活動での指導方法の検証

二つの異なる取組での話し合い活動を通して、生徒が自分の考えを伝える機会を設けたことにより、職員は生徒一人一人の効果的な対話について考えることができた。また、部屋担当の職員や自室の友達とできたことを他の職員や友達とも行うことができるように、指導方法を共有したことにより、関わりの幅が広がり、多角的に知識や情報を得る機会となった。

#### ② 生徒自らが考えて行動できる環境づくり

生徒が授業やこれまでの寄宿舎生活で経験したことがある活動を基に、生徒同士で学び合える活動を設定したことで、生徒が意欲的に活動し、内容を理解し、協力して目標に向かう姿が見られた。また、この取組が人間関係づくりにも効果的だった。

#### ③ 生徒一人一人の有効な手立ての共有

自立活動実態シートを学部と共有できたため、授業での姿を知り、寄宿舎の姿と比較しながら必要な力を見取り、一人一人に有効な手立てを検証することができた。また、取組で検証したことを日常生活の指導に般化できたことで、生徒が自分で考えて行動する姿が多く見られるようになった。

### (2) 課題

#### ① 考えだけでなく、思い（自分の気持ち）を引き出す職員の働き掛け

生徒はこれまでの活動の経験から、きまりやルール、マナーなどを覚え、職員の問い掛けに答えることができたが、課題があった際、理由や自分の気持ちを表現することが難しかった。今後、より丁寧に思いを引き出せるような人間関係の構築と話し合いの環境づくりに努めていきたい。

#### ② 生徒が創り上げる活動の実施

生徒が達成感、満足感を得るために、生徒一人一人の実態把握と必要な力を学部と共有しながら、生徒が自分たちでやりたいことを話し合い、実施できる機会の設定が必要である。これまでの検証から、生徒は活動をイメージすることが難しいため、発想を広げることができるように、職員は話し合い活動での生徒の発言や展開を予想するとともに、想定外の質問にも対応できる回答を準備して活動に臨むようにしたい。

#### ③ 集団生活だからこそ育むことができる人と関わる力

寄宿舎は、毎年度、男女比、学部比により構成が変わると集団の特性にも変化が見られる。集団生活は、社会性やコミュニケーション能力を育成する重要な場で人間関係の構築や社会生活を営む上で欠かせない要素となるため、生徒一人一人の実態把握のほか、生徒を取り巻く環境を的確に把握していくことが今後も必要である。

#### <参考文献>

新潟県立教育センター「主体的・対話的で深い学びの推進」プロジェクト(2018)：主体的・対話的で深い学び 実践ハンドブック

## 研究のあゆみ（平成10年度～令和7年度）

年度	研究主題	研究指定（国・県）	公開研究会	
平10	集団の中で個に応じた指導を行うために ～より実践しやすい指導方法を求めて～			
平11			県南三校合同授業研究会	
平12			県南三校合同授業研究会	
平13		マルチメディア活用 学校間連携推進事業 （国・県）		
平14				
平15	知的障害養護学校における マルチメディアの実践活用 ～児童生徒の実態に応じた 活用の在り方について～			
平16	一人一人のニーズに応じた 総合的な支援体制の構築に向けて ～個別の教育支援計画の策定と 他機関との連携の在り方を探る～	特殊教育実践研協力校 （県） 特総研研究パートナー	委嘱研究中間報告会	
平17			委嘱研究最終報告会	
平18	一人一人の力を伸ばす授業づくり ～授業改善の取組を通して～		自主公開研究協議会	
平19			自主公開研究協議会	
平20	一人一人が主体的に活動する姿を 目指した支援の探求		自主公開研究協議会	
平21			自主公開研究協議会	
平22	「児童生徒が関わりから学ぶ」授業づくり		自主公開研究協議会	
平23			自主公開研究協議会	
平24	「つくる活動」の授業づくり ～児童生徒の主体的取組を目指した 指導内容・方法の工夫改善～		公開研究会	
平25			公開研究会	
平26	「つくる活動」の授業づくり ～児童生徒が気付き、考え、 判断する姿を目指して～		公開研究会	
平27			公開研究会	
平28	児童生徒が「気付き、考え、判断する」 授業づくり		公開研究会	
平29	「分かる、できる、振り返る」授業づくり	特別支援教育に関する 実践研究充実事業（国）	公開研究会	
平30	「分かる、できる、振り返る」授業づくり ～学びがつながる 人とつながる～		公開研究会	
令元	「考える」を發揮する授業づくり			
令2	考え、表現する力を發揮する授業づくり		公開研究会	
令3	見える化で「分かった」「できた」 「もっと知りたい」が高まる授業づくり			
令4	意欲的に自分の役割に取り組む力を 育てる授業づくり ～めあてにつながる振り返りに 焦点を当てて～			
令5	意欲的に自分の役割に取り組む力を 育てる授業づくり		公開研究会	
令6	自ら考えて行動する力を育む授業づくり ～対話的な学習活動を通して～			
令7				

## おわりに

本校で学ぶすべての児童生徒において、「自ら考えて行動する力」は、社会の中で自立し、主体的に生きていくためには欠かすことのできない重要なものです。しかし知的障害等の障害がある児童生徒は日常生活や学習の場面において、自ら判断し、次にすべき行動を選択することに困難を抱えることがあります。だからこそ私たちは、児童生徒が「自分で考え」「自分で決めて」「自分から行動できた」と実感できる経験を多く積み、自己肯定感を高め、社会参加への意欲へとつながる大きな力を育てるべきと考えます。

本校では2年計画で、「対話的な学習活動」を通して児童生徒の主体性を引き出し、学びを自分のものとしていく授業づくりの実践を行ってきました。そこには、児童生徒同士が互いに認め合い支え合う関係性が育まれます。また、児童生徒が「自分にもできる」「自分の考えを伝えたい」と感じる瞬間が生まれます。教師が一方的に知識を伝えるのではなく、児童生徒が互いに意見を交わし、問いを立て、考えを深めていく過程こそが、主体的な学びを支える基盤となります。

今年度の本研究紀要では多くの実践がまとめられています。

小学部では、「自立活動実態シート」を基にした児童の実態把握と目標設定を行いました。そして参観シートを活用したミニ授業研究会を実施し、学部内の職員で授業を参観し合い、授業改善を図る取組を行いました。

中学部では、「自立活動お助けシート」を活用した生徒の実態把握を行いました。また、参観シートを活用した授業研究会を実施することによる授業づくり・授業改善を行いました。

高等部では、「自ら考えて行動する」姿の変容を目指し、全学年が単元検討会、指導案検討会を実施し、授業づくりの視点や自立活動の視点を踏まえた手立てや目標、学習活動を検証しました。

各学部とも教師が児童生徒の思考を丁寧に引き出し、対話を通して学びを広げていく工夫に満ちています。

私たちが目指すのは、児童生徒が自らの力を信じ、社会の中で自分らしく生きていく姿です。そのために、授業づくりにおいて「対話」を重視し、児童生徒が主体的に関わり合う場を保障することは、特別支援教育において大きな使命の一つであると考えます。本研究紀要が特別支援教育に携わる多くの先生方にとって、授業づくりを考える際の示唆となり、児童生徒の「生きる力」を育む実践の広がりへとつながっていくことを願っています。そして、ここに記された研究の成果が、児童生徒一人ひとりの可能性を広げ、未来へとつながる学びの姿を描く一助となることを心から期待します。

# 研 究 同 人

校 長 熊 谷 司  
 教 頭 佐 藤 茂 樹  
 川 越 真紀子  
 事 務 長 柴 田 真 希  
 教諭（兼）教育専門監 菅 原 咲希子  
 研究主任 目 黒 恭 子

小学部	中学部	高等部	寄宿舍
時 田 淳 子	藤 田 智 子	勝 田 し の ぶ	佐 藤 礼 子
佐々木 龍雄	今 野 洋 美	松 田 宏	吉 澤 真由美
佐々木 頭	藤 井 英 之	朝 倉 知 司	櫻 田 教 子
佐々木真夕子	熊 谷 道 大	泉 純 子	小 玉 亜 紀
赤 川 由 美	鈴 木 頭	須 田 孝 子	富 樫 裕 子
高畑 多恵子	加 賀 奈 津 子	斎 藤 健 子	高 橋 由 美
田 中 亜 紀	高 田 聡 美	葛 西 亜 樹 子	小 澤 美和子
小 林 紀 子	高 橋 悠	遠 山 成 子	加賀谷 信 子
丹 波 舞 子	豊 嶋 桐 夏	佐 藤 幸 徳	山 田 繭 子
森 愛 子	櫻 田 香 織	関 美 鶴 恵	松 川 倫 子
佐 藤 友 香	米 澤 萌 香	伊 藤 純 子	後 松 千 恵
鎌 田 育 子	武 藤 美 和 子	柿 崎 貴 之	谷 口 大 介
青木 真知子	小 番 奈 々	木 母 祐 子	高 橋 正 吾
松井 祐美子	田 口 千 玲	伊 藤 文 子	藤 田 和 輝
田 中 拓 弥	八 木 美 祐	藤 原 文 子	佐 藤 英 喜
高 橋 由 衣		高 柳 淑 子	石 川 久
藤澤 祐美子		高 橋 樹	大 友 るみ子
阿 部 真 奈		浅 野 航 大	富 樫 千 恵美
鈴木 やよい		宮 本 ゆ か り	
佐 藤 伸		高 井 哉 子	
木 村 啓 子		小 澤 奈 津 紀	
佐々木 一穂		高 橋 里 美	
古 屋 智 佳 子		守 屋 充 敬	
古 関 綾 子		佐 々 木 修	
辻 嶋 真 理 子		佐 々 木 正 則 子	
相 澤 唯		田 近 礼 津 子	
佐 藤 真 由 伽		草 薨 昇 子	
畠 山 千 紗		川 越 佳 子	
高 橋 千 尋		深 川 靖 子	
田 口 瑞 枝			
太 田 富 子			
和 賀 典 子			
佐 藤 千 尋			

